

時期變更屆書式

何新聞發行時期變更屆

一何年何月何日發行、第何號マテハ隔日 (若クハ毎月一回又ハ何々)

一何年何月何日發行、第何號ヨリ改メ毎日 (若クハ毎週又ハ何々)

右之通變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人氏 名 印

内務大臣某殿

發行所變更屆書式(印刷所變更屆書モ亦本例ニ依ル)

何新聞發行所變更屆

一舊發行所

何 社(社號ナキモノハ戶主ノ氏名)

府縣國郡區町村番地

何 社(社號ナキモノハ戶主ノ氏名)

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

發行人氏 名 印

内務大臣某殿

附 錄 在官中私ニ新聞紙へ公事掲載禁制

▲太政官達第三百三十一號

明治六年四月十日

諸 省 府 縣

在官ノ者官中ノ事務ハ勿論或ハ外國交際ノ妨碍トナルヘキ類ハ瑣細ノ件ト雖私ニ新聞紙へ令掲載候義不相成候事

但公布ヲ經ル文書又ハ其長官ヨリ差圖ノ分ハ此限ニアラス

附 錄 各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ

新聞紙へ掲載スルヲ許サス

▲太政官達第五百五十八號

明治八年九月十二日

院省使廳府縣

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候義不相成候此旨相達候事

附 錄 論說轉載

▲内務省甲第拾七號

明治十八年五月廿三日

警視廳府縣東京府ヲ除ク

新聞紙ニシテ他ノ新聞紙(歐文新聞ヲ除ク)ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ其新聞紙ニ轉載スルトキハ必ス原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候條現ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスルモノハ出願ノ際其旨持主又ハ社主へ相達左ノ書式ニ準シ受書ヲ徵シ當省へ進達可致此旨相達候事

但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本文原新聞持主又ハ社主ノ承諾証

各廳事務ニ係ル上申往復ノ公文ヲ新聞紙へ掲載スルヲ許サス 論說轉載 五百六十九

爲差出受書一同進達候儀ト心得ヘシ

書式

今般何新聞發行相願候ニ付准 歐文ノ新聞紙ヲ除キ他ノ新聞紙ニ掲載スル論説ヲ十日以内ニ轉載致候節ハ必原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ得タル上記記載可致候也

警視總監宛
府知事縣令

持主 何ノ誰

豫メ轉載ヲ目的トスル新聞紙原新聞紙持主又ハ社主ノ承諾證ニ添付スル書式
今般准許相願候何々新聞何々新報ニ掲載スル論説ヲ轉載致候目的ニ付何々新聞何々新報持主(又ハ社主)ノ承諾ヲ得候條別紙承諾證相添此段御届仕候也

年月日

持主 何ノ誰

警視總監宛
府知事縣令

附錄

傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ當日ノ

辨論ヲ指ス

▲司法省訓令第拾號

明治十九年六月廿一日

檢事長

新聞紙條例第三十三條ニ傍聴ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聴ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辨論ヲ得サル

義ニシテ裁判官傍聴ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辨論ノミヲ指スモノ
ニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ(第三十三條ハ現行條例ノ第十六條ニ當ル)

第二節 圖書出版ニ係ル心得

●甲第九十八號

明治十六年十二月廿四日

圖書ヲ出版セントスルモノハ出版ノ日ヨリ到達日數ヲ除キ十日前ニ内務省へ届出ツヘキ義ニ付即チ十四日前當廳へ差出來候處調理ノ都合有之自今二十日前當廳へ差出スヘシ

○本達甲第十一號

明治廿年十二月廿八日

課

署

略本曆類似ノ冊子出版發賣者處分手續左ノ通相定ム
但從前ノ達ハ總テ廢止ス

一出版發賣ヲ禁止セラレタル略本曆類似ノ冊子ヲ發賣スル者アルトキハ其情ヲ知ルヤ否ヤヲ審糺シ善意ノ發賣者ナル時ハ現在セル冊子ヲ押收シ警察官會同シ本人ニ命シ再ヒ使用スヘカササルヲ定度トシ之ヲ塗抹セシメ下付スヘシ

一若シ知情惡意ノ發賣者ト思料スルトキハ出版條例罰則第一條ニ據ル可シ(出版條例ハ廿年勅令第七十六號ヲ以テ改正)

一出版條例第一條ノ届出ヲ爲サス出版發賣スル者アルヲ發見シタルハ各署(第三課

モ含有ス)互ニ通報シテ嚴密取締ヲ施スヘシ(第三課ハ現時保安課)

一他府縣ニ係ル出版物ニシテ其冊子ノ禁止セラレタルヤ否ヲ判然セサル片ハ發賣人
 ナシテ發賣セサルノ受書ヲ徵シ現在品ハ封印シ本人ヲシテ保管セシメ其旨速ニ本
 部ニ報告スヘシ

一毎歲頒曆ノ期ニ至レハ偽曆又ハ巧ニ名題ヲ他ニ藉リテ類似ノ曆ヲ出版發賣スルモ
 ノアリ宜シク其季節毎ニ巡查ヲシテ特ニ取締法ニ注意セシムヘシ
 但シ本件ニ關シ神宮敎會員ヨリ囑托アリタル時ハ速ニ求メニ應スヘシ

附 錄 出 版 條 例

▲勅令第七十六號 明治二十年十二月廿八日

出版條例

第一條 凡ソ機械舍密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之
 ナ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖書ヲ作
 爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル
 者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此條例
 ニ依ルヘシ但雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ内務大臣

ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ヘキ日數ヲ除キ十日前
 製本三部ヲ添ヘ内務省ヘ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ内務
 省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品
 ハ著作者ノミニテ届出ルコトヲ得

著作者又ハ其相續者ヲ知ルヘカラザル片ハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ
 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ届ハ其學校會社等
 ナ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スヘシ

第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者
 又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 文書圖書ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日及印刷者ノ
 氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スヘシ

第八條 社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三
 條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘ

シ但雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

第十條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖モ若シ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ

第十一條 演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作者トス但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演說ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非レハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ依リ其責ニ任セシム

第十二條 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スヘシ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

但翻譯トハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其出版届ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

第十五條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ハラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條 軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑事ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖書ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ

記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條 印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作
者發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖書ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條 猥褻ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 文書圖書ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條 本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作
者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上百圓以下ノ
罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布

者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第二十八條 第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官
ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ
無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ
部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條 他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書
圖書ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ
著作家ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク
其罪ヲ論ス

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ル
モノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスル
モノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ
確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス
第三十三條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文
書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ

印刷シタル時ヨリ起算ス
 第三十四條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

附 錄 版 權 條 例

▲勅令第七十七號 明治二十年十二月廿八日

版權條例

- 第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ
- 第二條 出版條例ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得
- 第三條 版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ
- 第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ內務省ニ通知スヘシ
- 第五條 版權登錄ノ文書圖書ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條 內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ登錄ヲ經タル文書圖書ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス 講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノノ版權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス 官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其相續者トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若シ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテハ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十五年ニ足ラサル時ハ版

權登錄ノ月ヨリ三十五年トス
 數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス
 官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書並著作者死
 亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス
 第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ各號毎ニ其出版ノ月
 ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ
 雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得
 第十二條 版權ノ保護ハ其文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘ又ハ
 製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコトナカルヘシ
 第十三條 特ニ世ニ有益ナル文書圖書ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ勞力
 ト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於
 テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ
 第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコト
 ヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新
 聞紙並其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ
 版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スル
 コトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカヲサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手
 續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得
 第十五條 新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小説ハ
 其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ編纂シテ一部ノ
 書ト爲シ出版スルコトヲ得ス
 其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更
 ニ編纂スルコトヲ得ス
 第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ僞版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ
 責ニ任スヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ
 第十七條 僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣
 頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ末僞版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴
 者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ
 第十八條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス
 第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ増減シ註解
 附錄繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及本條例
 第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス
 他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ出版ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲メ故ラニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦僞版ヲ以テ論ス

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ僞版ヲ以テ論ス
第二十四條 内國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條 僞版ノ訴アリテ其僞版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ
第二十六條 僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條 僞版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス
第三十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條 現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

附 錄 脚本樂譜條例

▲勅令第七拾八號 明治廿年十二月廿八日

脚本樂譜條例

- 第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得
- 第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權)ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ
- 第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得
- 第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ
- 第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

附 錄 寫真版權條例

▲勅令第七十九號 明治廿年十二月廿八日
寫真版權條例

- 第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫真ト云ヒ寫真ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫真版權ト云フ
- 第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノ、寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス
囑托ニ係ル寫真ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫真師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス
- 第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫真一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫真ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受ルモノトス
- 第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス
- 第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ
- 第六條 寫真版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス
- 第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條 版權ノ保護ヲ受ル寫真ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ複製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ模寫ヲ爲シ及寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑托ニ係ル寫真ヲ複製スルコトヲ得ス

第九條 第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ偽版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メテレタル寫真又ハ模寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

附 錄

出版條例版權條例脚本樂譜條例并寫真

版權條例ニ關スル願届手續

▲内務省令第一號 明治二十二年一月二十四日

出版條例版權條例脚本樂譜條例並寫真版權條例ニ關スル願届手續等左ノ通之ヲ定ム

第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出

ス可シ

第二條 凡文書圖書ヲ印刷スル者ハ出版條例第七條ニ從ヒ其印刷竣功ノ年月日並住所氏名ヲ記載シ其之ヲ發行スル同條例第三條ニ從ヒ届出ノ年月日並其住所氏名ヲ記載スヘシ

第三條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式寫真版權登錄願ハ第四書式版權登錄證再度下付願ハ第五書式ニ依ル可シ

第四條 專ラ學術技藝ノ雜誌ニシテ出版條例第二條但書ニ從ヒ同條例ニ依ラント欲スル者並第九條但書ニヨリ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第六書式ニ依ルヘシ

第五條 版權條例第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第七書式ニ依リ豫メ二回以上出版ノ分隨意取束子版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ届書ニ添付スヘシ

第七條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第八書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式ノ證書ヲ下付スヘシ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スルモノハ本證書ノ謄本ニ其事由並下付ノ年月日ヲ裏書シ内務省ノ印ヲ捺ス(廿五年省令第三號ヲ以テ舊第七條ヲ削除シ第八條ヲ第七條ニ據上)

第一書式 用紙美濃

出版御届

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號
右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ今般出版候條製本三部相添此段御届申上候也

年月日

道廳何府何郡何町何番地
發行者 氏 名印
同上

著作者(相續者)氏 名印

第二書式 用紙同上

再版御届

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號
右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)ノ書ニシテ何年何月何日出版セシ處改正(増減、註解、附録繪圖等)相加ヘ今般再(三)版候條製本三部相添此段御届申上候也

年月日

道廳何府何郡何町何番地
發行者 氏 名印

同上

著作者(相續者)氏 名印

第三書式 用紙美濃 (廿五年省令第三號ヲ以テ第三第四第五第七書式改正)

版權登錄願

一書名 全何冊(枚)又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號 一部ノ定價金何圓錢
此登錄料製本六部ノ定價金何圓錢



右今般(何年月日)出版候條版權登錄被下度此段相願候也

廳何府何市區何町何番地
縣何郡何村何番地
版權所有者 氏 名印

內務大臣(爵)何誰殿

第四書式 用紙同上

寫真版權登錄願

一物象ノ名 何枚 一葉ノ定
此登錄料寫真六葉ノ定價金何圓錢



右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニテ今般發行致候條版權登錄被下度見本ニ葉相添
此段相願候也

年月日

廳何_府何_市何_區何_郡何_町何_村何_番地

名 印

第五書式 用紙同上
內務大臣(爵)何誰殿

一書名 (物象ノ名)

(寫真)版權登錄證謄本下付願

此手數料金五十錢



右何年月日版權登錄相成候處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄證謄本御下付
被下度此段相願候也

年月日

廳何_府何_市何_區何_郡何_町何_村何_番地

名 印

第六書式 用紙同上
內務大臣(爵)何誰殿

學術(技藝)雜誌出版條例ニ依リ出版(并手續省略)願

一書名

右專ラ何々ノ學術(技藝)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回(又ハ何々ノ日ヲ以テ)
發行致スヘキモノニ候處出版條例ニ依リ出版(致シ且同條例第三條ノ日限ニ不
拘其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノミ相納候様)致度此段相願候也

年月日

道廳何_府何_市何_區何_郡何_町何_村何_番地

名 印

發行 者 氏

編輯 者 氏

名 印

第七書式 用紙同上
內務大臣(爵)何誰殿

學術(技藝)雜誌版權登錄(手續省略)願

一書名 一部ノ定價金何圓錢

此登錄料製本(各號)六部ノ定價金何圓錢



右何年月日出版條例ニ依リ出版ノ許可ヲ得候處第何號一冊(自第何號至第何號
何冊分一時)版權登錄被下度此段相願候也

年月日
内務大臣(爵)何誰殿

應何府何市何町何番地
編輯者氏名印

同上謄本裏書々式

版權登錄之證

印刷 書名 何冊

著作者 氏名
版權所有者 氏名

右第 號ヲ以テ版權登錄簿ニ
登錄ス

明治年月日

内務省印

本證書毀損(紛失)再度下付
願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

印刷 明治年月日 内務省印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

第九書式

寫真版權登錄之證

印刷 物象ノ名 何枚

版權所有者 氏名

右第 號ヲ以テ寫真版權登錄
簿ニ登錄ス

明治年月日

内務省印

同上謄本裏書々式

本證書毀損(紛失)再度下付願
出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

印刷 明治年月日 内務省印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

▲内務省令第三號 明治二十一年四月二日

第一條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者其免許狀ヲ毀損又ハ紛失シタルハ其事由ヲ記シ證明書ノ下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五拾錢ヲ同省ニ納ムヘシ

第二條 舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得未タ出版セサル圖書ニシテ自今出版ノモノハ其製本ニ何年月日版權免許ト記載シ改正出版條例第三條ニ依リ届出ヲナスト同時ニ舊出版條例第二十條ノ免許料ヲ内務省ニ納ムヘシ

附 錄 一枚摺略曆出版規定

▲文部省令第二號 明治二十三年十月三十一日

明治十五年(四月)太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル所ノ一枚摺略曆ハ自今左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 一枚摺略曆ハ左ニ列記スル事項ニ限り記載スルモノトス
- 一 年號及紀元ノ年數千支
- 一 毎月ノ一日
- 一 日月食並其時間
- 一 大祭日並神社例祭大祓

一日曜表甲子表庚申表己巳表

一 二十四節氣及雜節

一 新月満月

一 前各項ニ相當スル陰曆日干支及陰曆ノ朔日干支並之ニ相當スル陽曆日

以上ノ事項ハ帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ但前各項規定ノ外本曆略本曆ニ掲載セサル事項ヲ記入スルハ此限ニアラス

第三章 銃獵及銃砲火藥并烟火

第一節 銃獵免狀出願方

●府令第五號 明治十九年八月十九日

銃獵免狀ヲ得ントスル者ハ自今所轄警察署ニ届出ヘシ

●達第四十六號 明治十九年八月十九日 郡 區 役 所

今般府令第五號ヲ以テ銃獵免狀出願ノ件布達候ニ付テハ右ニ關スル事務所轄警察署ヘ引繼クヘシ但爾後收税ノ手續ハ該署ノ通知ヲ得テ取調フル義ト心得ヘシ

第二節 鳥獸獵免狀所有者異動届

●府令第八號 明治二十三年一月三十一日

- 鳥獸獵免狀ヲ受ケタル者其獵期中左ノ事故ヲ生シタルハ速ニ所轄警察署ヘ届出ヘシ
- 一 族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキ
 - 二 府下在住ノ者ニシテ他管ニ寄留シ又ハ他管ノ者ニシテ府下ニ寄留シタルハ
 - 三 前項ノ寄留者ニシテ各其本管ニ復歸シタルハ

附 錄

鳥獸獵免狀所有者族籍姓名變換等ノ場合届出及返納方

▲農商務省訓令第三號 明治二十三年一月二十日 廳府縣(東京府神戶縣ヲ除ク)

鳥獸獵免狀ヲ受ケ其獵期中族籍姓名ヲ變換シ又ハ住居ヲ移轉シタルトキハ所轄警察署ヲ役所ニテ取扱ニ届出シメ或ハ他管ヨリ寄留セル者ニシテ本管ニ復歸シ又管内外ヲ問ハス轉籍若クハ寄留シテ引續キ銃獵スル者ハ甲乙兩地ノ警察署ヲ役所ニ所ハ郡ニ届出シメ該免狀ハ獵期後二十日以内ニ當初受取タル管廳ニ返納スヘシ

但明治十七年六月第廿號本省達ハ廢止シ及ヒ本文ニ牴觸スル從前ノ指令ハ取消ス

第三節 威銃取締規則及鳥獸獵期限

●甲第十號 明治十七年二月八日

威銃取締規則別紙之通相定メ本年二月十五日ヨリ施行ス(但書ハ廢止達ノ記號ニ付略ス)

威銃取締規則

(十九年府令第六號ヲ以テ本則中郡區役所トアルヲ警察署ト改メ第十條ヲ削除シ順次換上ケ第十一條改正)

- 第一條 五穀菜種等ノ植付及成熟ノ時季又ハ山林等ニ於テ鳥獸ノ害ヲ除去センガ爲メ威銃ヲ使用セントスル者ハ禍害ノ事狀ヲ詳悉シタル書面ニ銃名ヲ記シ且期限ヲ定メ其場所ノ圖面ヲ副ヘ地元戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署ヘ出願免狀ヲ受クヘシ
- 第二條 左ニ列記シタル者ハ免許狀ヲ付與セス
 - 一 十六歳未滿ノ者及銃砲ノ使用方ヲ知ラサル者
 - 二 瘋癲白痴者及眼力ノ不充分ナル者
 - 三 鳥獸獵規則ニ違犯シ處分ヲ受ケタル者
- 第三條 威銃免狀ハ其請願一期ノ効ヲ有ス故ニ滿期ニ至レハ直ニ還納スヘシ
- 第四條 滿期ニ至ルモ尙禍害アルヲ以テ再ヒ威銃ヲ使用セントスル者ハ前免狀ヲ還納シ第一條ノ手續ニ從ヒ出願更ニ免狀ヲ受クヘシ
- 第五條 威銃ハ和洋製ヲ問ハス使用スルヲ得ルト雖凡實丸ヲ用ユルヲ許サス但實丸ヲ用ヒサルヲ得サル場合ハ其地形等ヲ審査シ特許スルヲアルヘシ
- 第六條 威銃使用中ハ必ス免狀携帯ス可シ若シ官吏ニ於テ検査ヲ要スルハ直ニ点檢ヲ受ク可シ
- 第七條 人家又ハ人ノ方位ニ向ヒ發砲ス可カラズ
- 第八條 免狀ハ貸借賣買讓(渡請)スルヲ許サス

第九條

免狀ヲ毀失シタル片ハ其事情ヲ詳悉シタル書面ニ地元戸長ノ奥印ヲ受ケ所
轉警察署ヘ届出更ニ免狀ヲ受ク可シ

第十條 免許ノ者ト雖モ鳥獸ノ除害ヲ名トシ銃獵スル者ハ明治十年太政官第十號布
告鳥獸獵規則ニ依リ罰セラルヘシ

第十一條 此規則第一條第三條第五條第六條第七條第八條第九條ヲ犯シタル者ハ一
日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

●甲第七十四號

明治十五年七月二十二日

鳥獸獵期限ノ義ハ其年九月十五日ヨリ翌年五月三十一日マテ伸期候條此旨布達候事
但無定期場所ハ從前ノ通り心得ヘシ

第四節

銃獵及威銃免許事務取扱手續

○本達乙第十五號 明治十九年八月二十六日

警察署

銃獵及威銃免許事務取扱手續左ノ通定ム

但從前銃獵ニ關スル事務ハ所轄郡區役所ヨリ引繼ヲ受クヘシ

銃獵及威銃免許事務取扱手續

第一項 銃獵及威銃免許ハ凡ソ一ヶ年分所要ノ員數ヲ計リ毎年六月十日マテニ受取
方本部内事課ニ請求スヘシ但實際不足ヲ生スルトキハ臨時ニ請求スルヲ得(内事課ハ現時)

高等警察課

第二項 銃獵免許ヲ願出タルトキハ規則ニ照シ職遊獵ノ區分願人ノ資格及用銃ノ製
限等ヲ審査シ且其人姓名ヲ免許銃臺帳ニ引合セ不都合ナキトキハ願人ヲシテ所轄郡
區役所ニ至リ納税ノ手續ヲ爲サシメ一面免狀ヲ製シ即時該所ニ送付スヘシ 但願
書ハ一通ヲ徴シ指令スルニ及ハス若シ本人確實ト認ムルトキハ封緘ノ儘免狀ヲ携
行セムシルモ妨ケナシ

第三項 威銃免許ヲ願出タルトキハ規則ニ照シ願人ノ資格及用銃ノ制限等ヲ審査シ
且其人姓名ヲ免許銃臺帳ニ引合セ不都合ナキトキハ直チニ免狀ヲ下付スヘシ其實彈
ヲ用ユルモノハ本部ニ稟議シテ後チ處分スヘシ

第四項 銃獵免許臺帳威銃免許臺帳各一冊ヲ製シ免許人ノ族籍住所氏名年齢用銃ノ
種類玉目免許ノ年月日及其期限等ヲ詳記スヘシ

第五項 威銃免狀水火盜難又ハ其他ノ事故ニ由テ毀失等届出ルトキハ事實ヲ審札シ
舊免狀アルモノハ還納セシメ更ニ新免狀ヲ下付シ其旨臺帳ニ登録スヘシ若シ銃獵
免狀ニシテ以上ノ届アルトキハ第二項ノ手續ニ據リ單ニ手数料ヲ納メシム但轉住
又ハ改氏名等ハ共ニ明治十七年(六月)農商務省第二十號達ニ遵フヘキ者トス(廿年本
達乙第百廿五號ヲ以テ本條改正ス)

第六項 前項銃獵免狀ノ遺失ニ係ルトキハ其番號持主ノ住所氏名職遊獵ノ區分及遺

農商務省
第二十號
達乙第百廿五號
令第三號
止ス

失ノ事由ヲ詳記シ速ニ本部内事課ニ報告スヘシ
 第七項 満期ニ至レハ速ニ免狀ヲ還納セシメ一ケ年分取纏メ使用殘餘ノ銃獵免狀ト
 俱ニ毎年六月三十日限リ本部内事課ニ送致スヘシ
 第八項 每期銃獵免許明細表（自前年七月一日至該年六月卅日）及威銃免許明細表ヲ製シ毎年七月十
 日限リ本部内事課ニ送致スヘシ
 第九項 免狀及明細表様式ハ左ノ如シ

銃獵免狀

| | | | | | |
|------------------|-----------|-------|------------|-------|--------|
| 農務局印 | | 鳥獸獵免狀 | | 番號 | 遊獵第何號 |
| 農務省許之章 | 銃獵免 | 姓名 | 何府(縣)華士族平民 | 籍 | 何某 |
| 住 | 年 | 姓 | 本 | 籍 | 何十年何ヶ月 |
| 所 | 齡 | 名 | 籍 | 號 | 何十年何ヶ月 |
| 何國何郡(區)何町(村)何番地住 | 或ハ(寄留) | 何 | 何 | 何 | 何 |
| 至明治何年何月何日 | 自明治何年何月何日 | 至 | 自 | 至 | 自 |
| 何年何ヶ月 | 何年何ヶ月 | 何年何ヶ月 | 何年何ヶ月 | 何年何ヶ月 | 何年何ヶ月 |
| 明治何年何月何日 | | | | | |
| 大阪府何警察署印 | | | | | |

威銃免狀

| | | | | | |
|------------------------|--------------------|------------|-------|-----------|-----------|
| 警察署印 | | 威銃(實彈)免許之証 | | 何警第何號 | 署長印 |
| 裏 | | 表 | | 明治何年何月何日 | |
| 族籍 | 住所 | 氏名 | 年齡 | 期限 | 何年何ヶ月 |
| 何府(縣)國郡(區)町(村)番地士族(平民) | 府下何郡(區)町(村)番地住(寄留) | 何某 | 何年何ヶ月 | 自明治何年何月何日 | 至明治何年何月何日 |
| 警察署印 | | | | | |

銃獵免許明細表

| | | 自明治何年何月何日 | | 銃獵免許明細表 | | 何警察署 | |
|-------|-------|-----------|-------|---------|-------|------|-------|
| | | 自明治何年何月何日 | | 銃獵免許明細表 | | 何警察署 | |
| 免狀受取高 | 職 | 何千何百枚 | 何千何百枚 | 遊 | 十 | 十 | 何千何百枚 |
| | | 何千何百枚 | 何千何百枚 | | | | |
| 全下付高 | 何 | 何千何百枚 | 何千何百枚 | 何 | 十 | 十 | 何千何百枚 |
| | | 何千何百枚 | 何千何百枚 | | | | |
| 全再渡高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 十 | 十 | 何千何百枚 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 全書換高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 十 | 十 | 何千何百枚 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 全殘餘高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 十 | 十 | 何千何百枚 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 銃獵稅 | 何 | 何千何百圓 | 何千何百圓 | 何 | 十 | 十 | 何千何百圓 |
| | | 何千何百圓 | 何千何百圓 | | | | |
| 手數料 | 何 | 何 | 何 | 何 | 十 | 十 | 何千何百圓 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 免許人身分 | 華士族何人 | 何 | 何 | 皇族何人 | 士族何人 | 何 | 何千何百人 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 獵銃種類 | 和平民何人 | 何 | 何 | 華族何人 | 平民何人 | 何 | 何千何百人 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 銃獵禁止 | 洋銃何十挺 | 何 | 何 | 洋銃何十挺 | 洋銃何十挺 | 何 | 何千何百挺 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 地名 | 某地 | 何 | 何 | 何 | 十 | 十 | 何千何百挺 |
| | | 何 | 何 | | | | |

威銃免許明細表

| | | 自明治何年何月何日 | | 威銃免許明細表 | | 何警察署 | |
|---------|-------|-----------|---|---------|------|------|---|
| | | 自明治何年何月何日 | | 威銃免許明細表 | | 何警察署 | |
| 免狀受取高 | 空 | 何 | 何 | 彈 | 實 | 彈 | 計 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 全下付高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 全再渡高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 全書換高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 全殘餘高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 全前年度還納高 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 免許人身分 | 華士族何人 | 何 | 何 | 華士族何人 | 平民何人 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 用銃種類 | 和平民何人 | 何 | 何 | 和平民何人 | 平民何人 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 洋銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 和銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 洋銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 和銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 洋銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 和銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 洋銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |
| 和銃 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 | 何 |
| | | 何 | 何 | | | | |

第五節

銃砲所持者異動并ニ免許銃
賣買讓與届及銃砲調査手續

●甲第二百五十三號 明治十四年十二月三日

銃砲所持者轉籍及ヒ他管下へ寄留シ又ハ他管下ヨリ轉籍寄留スルトキハ其時々銃砲
名玉目軍用銃砲ニシテ管轄廳ノ檢印アラ其他所持ノ事由何年月何日何國何處何某
ルノ詳細シ所轄警察署又ハ分署へ可届出此旨布達候事 但所持者死亡スルトキハ
相續人等ノ繼續所持スヘキ者ヨリ届出ヘシ

●甲第七十四號 明治十九年五月十三日

免許銃賣買及讓與届ハ自今所轄警察署へ差出シ其製造願及外國人ニ關スル賣買願ハ
所轄警察署ヲ經由シテ當廳へ差出スヘシ

但軍用銃ニ關スルモノハ從前ノ通

○本達第三十五號 明治二十三年四月四日

警察署

銃砲調査手續左ノ通相定ム

銃砲調査手續

- 一 軍用銃賣買讓受渡鑄潰改造等ニ關スル諸願届ヲ受理シタルトキハ原簿ニ照合シ
高等警察課へ送付シ指令ノ回送ヲ得ハ直ニ本人へ下付シ且原簿ヲ加除スヘシ
- 二 特許人ヨリ免許銃ノ製造又ハ外國人ニ關スル賣買願ヲ差出シタルトキハ前項ノ

手續ヲナスヘシ其他免許銃賣買讓受渡等ニ關スル諸願届ハ警察署ニ於テ調理ス
ルヲ得

三 前項ニ因リ特許人ノ所有又ハ民有免許銃ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ原簿ヲ加
除スヘシ

製造落成ノ場合ニ於テ必要ナルトキハ現品ヲ檢査スルコトヲ得

四 明治十四年甲第二百五十三號布達ニ依リ警察署又ハ分署ニ於テ銃砲所有者轉籍
寄留其他ノ異動届ヲ受タルトキハ原簿ヲ加除シ分署ニ在テハ本屬警察署ニ通報
スヘシ

軍用銃ニ關スルモノハ其届書ヲ高等警察課へ送付スヘシ

五 銃砲ニ關スル諸願届等高等警察課ニ於テ直ニ受理シタルトキハ處分濟ノ上管轄
警察署へ通報スヘシ

六 戸口調査巡查ハ他ヨリ寄留又ハ轉籍ノ者(外國人又ハ准士官以上武官ハ除之)アリタルト
キハ銃砲所持ノ有無ヲ取調ヘ其所有者ハ戸口調査簿へ便宜目標ヲ付シ自他照顧
ノ便ニ供スヘシ

七 巡查前項ノ調査又ハ其他ノ手續ニ因リ正當ノ届出ヲナサスシテ銃砲ヲ所有スル
者アルカ若クハ所有者ニシテ届ヲナサス他へ轉居セシ者アルヲ發見シタルトキ
ハ速ニ本屬署長へ報告スヘシ

八警察署又ハ分署ニ於テ前項ノ報告ヲ得タルトキハ調査ノ上原簿ヲ加除シ軍用銃ナルトキハ尙高等警察課ヘ通報スヘシ

他ヘ轉居ノ者當府管内ナルトキハ其軍用銃タルト否ニ拘ハラズ管轄警察署ヘ通報スヘシ第四項ノ場合ニ於テ本人ノ届出ヲ得タルトキ亦全シ

無檢印軍用銃ヲ所持スル者ヲ發見シタルトキハ其事由ヲ取調ヘ始末書ヲ添ヘ檢印ノ出願ヲ爲サシムヘシ

九警察署及分署ニ於テハ左ノ簿冊ヲ備置クヘシ

一民有銃砲原簿 (第一號書式ニ依リ軍用銃ト免許銃ハ見出ヲ以テ區別ス又見出ヲ付スヘシ) (學校會社及船舶等ノ所有ニ係ルモノハ別ニ一綴ニナシテ)

十銃砲賣買免許商又ハ免許銃製造免許人所在ノ警察署ニ於テハ前項ノ外尙左ノ簿冊ヲ備置クヘシ

一免許商銃砲原簿 (軍用銃有檢印ハ第二號書式ニ據リ無檢印及免許銃ハ第三號ノ例ニ倣フヘシ)

一免許銃製造調査簿(第四號書式)

十一警察署ニ於テハ民有又ハ特許人銃砲年表(別紙自第五號至第七號)ヲ製シ一月十日限り高等警察課ヘ送付スヘシ

(第一號)

明治(何)月第(武庫檢)(何)年(何)月第(何)百(何)號 (何)國(何)郡(何)村(第何)十(何)番地(平民)

一(和)銃 玉目(六匁五分) (壹)挺 主持 (何) (某)

備 (何)年(何)月(何)日(何)處(何)某ヨリ買求ム (又ハ從來所持)

考

明治(何)年(何)月第(何)縣檢(何)十(番) (何)國(何)郡(何)村(第何)百(何)番地(寄留)(何)縣(士族)

一(貳)番形拳銃 玉目 (壹)挺 主持 (何) (某)

備 (何)年(何)月(何)日(何)縣ヨリ寄留

考

明治(何)年(何)月第(武庫司又ハ何)府(何)縣(何)國(何)郡(何)村(第何)番地(士族)(何)某方全居又ハ父子兄弟

一(和)銃 玉目(二匁五分) (貳)挺 主持 (何) (某)

備 (何)年(何)月(何)日(何)縣ヨリ入籍

考

銃砲調査用紙

| | | | | | | | | |
|----|---|---------|----|----|---|----|----|----|
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |
| | | 明 年 | | | | | | |
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |

(第二號)

| | | | | | | | | |
|----|---|---------|----|----|---|----|----|----|
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |
| | | 明 年 | | | | | | |
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |
| 考備 | 一 | 明治 年 | 月第 | 玉目 | 國 | 區郡 | 町村 | 番地 |

銃砲所持者異動并ニ免許銃賣買讓與届及銃砲調査手續

六百十二

(第五號)

| 郡區名 | 西 | | 洋 | | 和 | | 計 |
|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|
| | 入 | 出 | 入 | 出 | 入 | 出 | |
| 何郡 | 二五〇 | 四九 | 三七 | 二六二 | 六〇 | 一三 | 一五 |
| 何區 | 、、 | 、、 | 、、 | 、、 | 、、 | 、、 | 五八 |
| 合計 | | | | | | | 三二〇 |

明治何年中民有軍用銃(免許銃)調査表

何警察署

(第六號)

| 免許商 | 西 | | 洋 | | 和 | | 計 |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入 | 出 | 入 | 出 | 入 | 出 | |
| 何某 | | | | | | | |
| 、 | | | | | | | |
| 、 | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | |

明治何年中免許商軍用銃(免許銃)調査表

何警察署

銃砲所持者異動并ニ免許銃賣買讓與届及銃砲調査手續

六百十三

(第七號)

明治何年中製造人免許銃調査表

警察署

| 製造人 | 未製造 | | 許可高 | | 計 | | 製造高 | | 計 | | 賣却高 | | 現在 | | 未製 | | 高造 | |
|-----|-----|---|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|---|----|---|----|-----|
| | 越 | 高 | 許 | 可 | 計 | 持 | 越 | 製 | 計 | 賣 | 却 | 現 | 在 | 未 | 製 | 高 | 造 | |
| 何某 | | | 〇 | 二〇〇 | 二〇〇 | | 八〇 | 一〇〇 | 一八〇 | 一二〇 | | 六〇 | | | | | | 一〇〇 |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第六節 盜犯者所持銃砲取扱

○本甲第二百二號 明治十六年十一月十四日

警察署

強竊盜捕縛ノ際「ピストル」銃所持致居候得者該銃へ檢印(何ノ何號府縣名)有無取調其時々本署第二部へ通知可致此段豫テ及通達候也(現時高等警察課ノ主管)

第七節 銃砲火藥免許商人願届

●無號 明治十七年二月廿七日

銃砲彈藥賣買免許商人
獵銃製造免許人

獵銃雷管及散彈製造ノ儀ハ出願許可ヲ得尙製成ノ上更ニ檢査出願爲致來候處自今檢査ヲ要セス製造ノ都度其員數ヲ届出ヘシ右相達候事

●無號 明治十七年三月十五日 銃砲彈藥賣買免許商人

他府縣ノ免券ヲ以テ銃砲彈藥買入ノ儀申來ルトキハ直ニ右免券ヲ添へ願出ヘク旨豫テ相達置候處自今出願ニ及ハス免券相添へ其時々届出ヘシ

●無號 明治十八年十二月廿二日 銃砲賣買免許人

銃砲製造ニ係ル願届書式別紙之通相定候條明治十九年一月一日ヨリ右ニ照準可差出此旨相達候事

盜犯者所持銃砲取扱 銃砲火藥免許商人願届

製造願 (二通ヲ要ス)

一何獵銃

何十挺

右ハ今般製造仕度候ニ付テハ出來ノ都度速ニ御届可仕候間御聽許被成下度此段奉願候也

年月日

銃砲製造免許人

何 某

大阪府知事宛

改造願 (二通ヲ要ス)

一何銃

何 挺

右ハ從來所持何々銃ヲ以テ改造仕度尤モ出來ノ都度速ニ御届可仕候間御聽許被成下度奉願候也

年月日

銃砲賣買免許人

何 某

大阪府知事宛

製造出來御届 (一通)

一何獵銃

何 挺

但年月日製造又ハ改造御許可ノ分

右ハ本日出來仕候間此段御届申上候也

年月日

銃砲賣買免許人

何 某

大阪府知事宛

●無號 明治十八年十二月廿三日

銃砲賣買ニ係ル願届書式別紙ノ通相定候條明治十九年一月一日ヨリ右ニ照準可差出此旨相達候事

(書式)

賣却御届 (管外ニ係ルモノ) 一通

何年何百何十何號 何府縣檢印

一何番形拳銃 一 挺

彈藥何發

右ハ何府何郡何番地(又ハ免許商)何某へ別紙免狀ニ照シ賣却候間此段御届申上候也

年月日

銃砲賣買免許商

何 某

大阪府知事宛

賣買御届 (管内ニ係ルモノ) 一通

一何獵銃

何 挺

但年月日何某ヨリ買入御届ノ分
又ハ年月日製造出來御届ノ分

右ハ府下何(郡區)何(町村)何番地(寄留人ナレハ原籍ナモ併記スヘシ)(又ハ免許商)何某へ賣却仕候間連署ヲ以テ御届申上候也

年 月 日

銃砲賣買免許商

賣渡人 何 某

買受人 何 某

大阪府知事宛

賣却御届 (管外ニ係ルモノ) 一通

一何々獵銃

何 挺

但年月日何某ヨリ買入御届ノ分
又ハ年月日製造出來御届ノ分

右ハ何(府縣)何(郡區)何番地(又ハ免許商)何某へ賣却仕候間此段御届申上候也

年 月 日

銃砲賣買免許商

何 某

大阪府知事宛

檢印願 (二通ヲ要ス)

(一行ノ空野ヲ要ス)

一何 銃

何 挺

但年月日御許可何某ヨリ買入ノ分

右檢印番號御彫刻被成下度奉願候也

年 月 日

銃砲賣買免許商

何 某

大阪府知事宛

鑄 潰 願 (二通ヲ要ス)

一何々銃

何 挺

但年月日御許可何某ヨリ買入ノ分

右ハ毀損ニ付鑄潰仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

年 月 日

銃砲賣買免許商

何 某

大阪府知事宛

附 錄 銃砲取締規則及違犯者處分方并銃砲外國人ト賣買

▲第二十八號布告 明治五年正月廿九日

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月一日ヨリ規則之通可相守事

銃砲取締規則

第一 則

一大小銃并彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

一府下

各五員

一縣下

各三員

一鎮臺本分營下

各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス

一開港場

各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京武庫司ヘ届ケヘキ事

第二 則

一免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ願出事

一免許商人ハ陸海軍準士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルトキハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事

第三 則

一免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳ヘ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺ヘ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司ヘ差送可申尤東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四 則

一彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミチ計リ勝手ノ場所ヘ差置間敷兼テ其地方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ願出ヘキ事

第五 則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ビストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大阪ハ武庫司ヘ持出 別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人ヘ譲リ與ヘ候節ハ第二

則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致度者モ亦二則ノ通タル可シ

銃砲改刻印式

于支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置キ管轄鎮臺ヘ届出鎮臺ヨリ東京武庫司ヘ差送り可申事

免許ノ銃類

一和銃四文目八分玉以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナルトモ霰彈ヲ用キルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳ヘ届出其廳ヨリ東京武庫司ヘ差出可申東京大阪ハ所持ノ者ヨリ直ニ武庫司ヘ届出ヘシ萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨モノ官ヘ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据ヘ可相渡事

第六 則 (十年第十一號鳥獸獵規則廢布ニ付刪除)

第七 則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥ニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳ヘ相願管轄鎮臺ヘ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司ヘ差送り檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳ヘ爲差出其廳ヨリ東京武庫司ヘ可差出事

但東京大阪ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司ヘ可届出事

右之通ニ候事

▲第二百八十二號布告 明治五年九月廿三日 諸 省 府 縣

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相達候事

一銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事
一免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事(七年第三百三十二號布告ヲ以テ追加)

但書同前

右取上ケ候品東京大阪ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺ヘ可差出事

▲第三百一十一號達 明治八年六月廿八日 使 府 縣

今般銃砲彈藥取締ノ儀內務省ヘ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀モ可有之候得

共差向キ従前規則ノ通相心得取締可致尤モ右規則中是迄陸軍省及各鎮臺等へ申出候分ハ總テ内務省へ可申出其他管理替ニ付牴觸ノ箇條ハ廢シ候義ト可心得此旨相達候事

▲内務省訓令第二十六號 明治廿年四月十四日 開港場開廳府縣 市場アル廳府縣 銃砲類外國人ト賣買ノ義免許商人ヨリ願出ノ節ハ其廳ニ於テ許可シ賣買員數種目及ヒ雙方國名人名共一周年間統計シ翌年一月三十一日限り常省へ報告スヘシ

附錄 鳥獸獵規則

▲第十一號布告 明治十年一月廿三日 鳥獸獵規則別紙之通改正候條此旨布告候事

鳥獸獵規則

- 第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トス遊樂ノ爲メニスルヲ遊獵トス
- 第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ
- 第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳へ差出スヘシ
- 第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スル

ヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受クル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一職獵稅

金壹圓

一遊獵稅

金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受クルモノハ更ニ税金ヲ納ムル

ニ及ハスト雖モ手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ム可シ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セサルヘシ

一十六歳未満ノ者

一白痴瘋癲等ノ者

一故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケン者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス

一都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一銃丸ノ達スヘキ恐アル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃ニ擬テ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ
一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ル可シ軍銃ヲ用キルヲ禁ス

但開拓使管内ニ限り銃玉丸目拾及以下ヲ用キルヲ得ヘシ

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス此期限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景况ニヨリ已ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スル時ハ其理由ヲ農商務省ヘ届出ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帶スヘシ出獵中警察官吏區戶長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラズシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁ス可シ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ證據ヲ取り訴出ル時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス可シ

第十八條 開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ(開拓使ハ十五年第八號布告ヲ以テ函館札幌根室ノ三縣ヲ設置ニ依リ廢止)

第八節 火藥取締規則取扱手續

○本甲第五十二號 明治十八年五月廿二日

警部 察二部 署(水上署ヲ除ク)

火藥取締規則取扱手續別紙之通相定候條此段及通達候也

但従前ノ通達及指令中此取扱手續ニ抵觸スルモノハ總テ消滅トス

火藥取締規則取扱手續

第一條 火藥取締ニ關シ管轄警察署ノ取扱ニ係ル諸件ハ以下各條ニ從ヒ當行ス可シ

第二條 規則第十條ニ依リ銃砲用若クハ坑業土工其他職業用ニ供スル爲メ火藥類買受ケノ許可證ヲ乞フモノアルルハ左ノ件々ヲ推問シ許可差支ナキモノト認メタルルハ第一號離形ニ倣ヒ證書ヲ下付ス可シ

但威銃銃獵烟火製造等免狀ヲ以テ買入ル、者ハ此限ニアラス

一 買受人ノ住所職業氏名年齢 一 買入先營業者ノ住所氏名

一 使用ノ目的及ヒ場所

一 銃砲用ニ供セントスルモノハ制限ノ數量ヲ超過セサルヤ否

一 坑業土工其他職業用ニ供セントスルモノ規則第十三條ノ制限ヲ超過スルルハ假

貯藏所ノ位置及許可ノ有無若クハ規則第二十條ノ制限ヲ超過セサルヤ否
 一銃砲用ニ供セントスルモノ再度以上ノ買受ニ係ルハ最前買受殘余ノ有無ヲ糺
 シ若シ殘余アラハ之レヲ通算シテ規則第十三條ノ制限ヲ超過セサルヤ否
 第三條 十六歳未満若クハ白痴瘋癲者ニハ許可證ヲ附與スヘカラス
 第四條 規則第六條ニ依リ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等許可ヲ乞フルハ
 事實ヲ審糺シ第二號書式ニ倣ヒ許否ノ指令ヲ附スヘシ
 但五貫目以上運搬ニ係ルモノハ規則第四章以下ニ從フモノトス
 第五條 火藥庫及假貯藏所烟火製造所等建設出願ニ際シ實地臨檢ヲ移シタルハ警
 部補代理巡查以上ノ者ヲシテ規則第十四條以下各條ニ基キ臨檢セシムヘシ
 第六條 營業者外國人ヨリ火藥類ノ賣買ヲ願出タルハ本署第二部(以下)送致スヘシ
 (十八年本甲第五十
 八號ヲ以テ改正)
 第七條 規則第二十二條ニ依リ火藥類運搬ノ許可証ヲ乞フモノアルハ本則第廿三
 條第廿四條ノ準備セルヤ否ヲ推問シ許可差問ナキモノト認メタルハ第三號雛形
 ニ倣ヒ證書ヲ下付スヘシ(廿二年本達第五十八號
 ヲ以テ本條但書削除)
 第八條 營業者ヨリ賣買月表ヲ差出シタルハ之ヲ調査シ第四號雛形ニ倣ヒ毎月十
 五日限リ送致スヘシ(十八年本甲第六十二號ヲ以テ第八條ヲ刪
 除シ第九條ヲ本條トシ以下順次繰上ク)
 第九條 劇發火藥(棉火藥ダイナマイ)ノ發賣先キ及其種類數量等第五號雛形ニ倣ヒ
 (トセラチンノ類)ノ發賣先キ及其種類數量等第五號雛形ニ倣ヒ

精密取調毎月五日限リ送致スヘシ

第十條 此取扱ヒニ關スル簿冊ハ左ノ如シ(十八年本甲第五十八號ヲ以テ火藥類買
 一火藥營業者根簿(第六號雛形) 一火藥賣買月表屆編冊)

一火藥賣渡屆編冊

第十一條 第二條第四條第七條ノ願ニ關スル許否ハ諸願摘要録ヲ用ユヘシ(十八年本
 八號ヲ以テ本條ニ但書ヲ追加シ同年
 本甲第六十二號ヲ以テ同書ヲ刪除ス)

第一號 (用紙仙花四ツ切)

| | |
|---------------|----------------------------|
| 何(何) 號第 | 火藥類買入許可證 |
| 何(何) 種類 | 火藥類 |
| 何(何) 數量 | 何個 |
| 何(何) 使用ノ旨趣 | (抗業、土工、石割、銃砲、劇場、鑛山或ハ何々) |
| 何(何) 及ヒ場所 | (何國何郡區何町村何番地) |
| 何(何) 所買人姓名 | (何) |
| 何(何) 所賣人姓名 | (何) |
| 何(何) 右許可候事 | 大阪府(某)警察署印 |
| 何(何) 明治何年何月何日 | |
| 備考 | ハトロンノ如キハ何個ノ傍ヘ其火藥ノ數量見積ヲ記スヘシ |

第二號書式 (十九年本達乙第三十一號ヲ以テ
指令書式ヲ改正依テ茲ニ修正ス)
書面之趣認可ス(認可セス)

年 月 日

大阪府 何 警察 署

第三號

(用紙仙花四ツ切)

(何何
號第)

運 搬 許 可 證

種 類

(一) 火 藥
(一) ダイナマイト
(一) 何 々
何 貫 目
何 貫 目

數 量

發 遣 日 時

(何月何日午前何時何所何某方ヲ發ス)

場 到 着 日 時

(何月何日午前何時何所何某方ニ着)

印刷

通 路

(何國何街道何々所ヲ經テ何所へ
至ル或ハ(海路)何港へ着)

右 許 可 候 事

明治(何)年
(何)月(何)日

大阪府(某)警察署 印

第四號雛形

明治何年何月中火藥類賣買表

營業者何某

| | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 品 位 | 持 越 高 | 買 入 高 | 賣 却 高 | 殘 り 高 |
| 火 藥 | 何 貫 目 | 何 貫 目 | 何 貫 目 | 何 貫 目 |
| 導 火 繩 | 何 十 把 | 何 把 | 何 把 | 何 把 |
| 雷 管 | 何 十 個 | 何 個 | 何 個 | 何 個 |
| 散 彈 | 何 發 | 何 發 | 何 發 | 何 發 |
| ハ ト ロ ン | 何 發 | 何 發 | 何 發 | 何 發 |
| 何 々 | 何 々 | 何 々 | 何 々 | 何 々 |

○警達第十七號 明治二十四年三月二十七日
火薬類賣買運搬許可ノ義自今分署ニ於テ取扱ヒ苦シカラス

警察署

第九節 烟火取締規則

●府令第五十六號 明治二十二年七月廿三日

烟火取締規則左ノ通相定來ル八月五日ヨリ施行ス但烟火ニ關スル從前ノ諸達ハ同日限リ廢止ス

從來ノ營業者ハ本令施行期日迄ニ本則ニ依リ更ニ願出ヘシ若シ製造營業者ニシテ期限内ニ出願シ能ハサル事故アルモノハ相當ノ猶豫ヲ乞フコトヲ得

烟火取締規則

第一條 烟火製造ノ營業ヲナサントスル者ハ左ノ諸件ヲ具シ管轄警察署ヲ經テ出願允許ヲ受クヘシ

- 一 製造所ノ位置（倉庫又ハ火薬類貯藏所ヲ設クルモノハ其位置構造ヲ詳悉シタル縮圖）
- 二 製造所並火薬類置場ノ構造及方法書
- 三 製造所ノ周圍ヨリ四隣三十間以内ノ地主家主現住者ノ承諾書
- 四 烟火種類製法（藥品配合分量等）及其置場

第二條 烟火製造所ノ位置構造ハ左ノ諸項ニ遵フヘシ

- 一 家屋諸製造所氣車線路若クハ火ヲ取扱フヘキ場所ヨリ十間以上ヲ隔ツルコト
- 二 製造所ノ周圍及天井ハ厚サ五分以上ノ土塗トナシ入口ニケ所窓ニケ所以上ヲ設クルコト
- 三 製造所ノ一隅ヘ不燃質物ヲ以テ區畫シタル火薬類置場ヲ設クルコト

第三條 允許ヲ得タル後第一條ノ各項目ヲ變更シ又ハ改修セントスルトキハ更ニ出願允許ヲ受クヘシ

第四條 製造者職工ヲ使用セントスルハ豫メ其住所氏名年齢ヲ届出認可ヲ受クヘシ

第五條 職工ハ左ノ項目ニ抵觸セサルモノニ限ル但該項目ニ抵觸セスト雖モ不適當ト認ムルモノハ認可セス認可ノ後ト雖モ之ヲ除名セシムルコトアルヘシ（廿二年府令第五十九號ヲ以テ本條中削除）

- 一 年齢十六年未滿ノ男女
- 二 瘋癲白痴者

第六條 製造者自ラ製造所ヲ監理シ能ハサル事情アルモノハ相當ノ代理者ヲ定メ豫メ認可ヲ受クヘシ

第七條 製造者又ハ代理者ハ烟火製造中其場所ヲ離ルヘカラス

第八條 烟火ハ製造所ノ外ニ於テ製造スヘカラス製造所又ハ倉庫ノ外之ヲ貯藏スヘ

カラス

線香烟火ハ邸宅内ト雖トモ安全ナル場所ヲ指定スルニ於テハ特ニ製造若シクハ貯藏ノ允許ヲ與フルコアルヘシ但其場所ヲ變更セントスルキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條 烟火ハ日出前日没後製造スヘカラス烈風雷鳴等ノトキハ官署ノ命令ヲ俟タズ自ラ其業務ヲ停止スヘシ

第十條 火藥類ノ貯藏ハ烟火ニ製造現存スル者ヲ併セ重量五百貫目ヲ超過スヘカラス

第十一條 製造所又ハ火藥類若クハ烟火ヲ貯藏スル倉庫内ニ於テ喫烟ヲナシ又ハ火氣若クハ發火質ノ物品ヲ取扱ヒ又ハ猥リニ他人ヲ入ラシムヘカラス

第十二條 烟火販賣ノ營業ヲナサントスル者ハ其種類及置場ヲ記載シ管轄警察署ヘ出願允許ヲ受クヘシ但玩弄烟火ハ置場ヲ記載セサルモ妨ケナシ

允許ヲ得タル後種類置場ヲ變更セントスルトキハ更ラニ允許ヲ受クヘシ

第十三條 製造者轉居改氏名及廢業シタルキハ三日以内ニ管轄警察署ヲ經テ届出ヘシ販賣者前項ノ場合ニ於テハ同シク警察署ヘ届出ヘシ

- 第十四條 製造者ハ簿冊ヲ製シ正確ニ左ノ事項ヲ記載シ警察官吏ノ點檢ニ供スヘシ
- 一 火藥ヲ買入レタルトキハ其年月日斤量及免許商氏名
 - 二 製造シタル烟火ノ種類及員數
 - 三 賣渡シタル烟火ノ種類員數年月日及買受人ノ住所氏名

四 毎月末日火藥類及烟火現在高

第十五條 製造所及販賣所ハ左ノ看板ヲ掲グヘシ

縦二尺八寸

| | |
|---|------|
| 免 | 製造所 |
| 許 | 販賣所 |
| 住 | 住所氏名 |

横七寸

第十六條 製造所及販賣所ハ警察官吏臨時檢査スルコアルヘシ

第十七條 烟火打揚ヲナサントスル者ハ日時場所種類及員數ヲ記シ遅クモ前日迄ニ管轄警察署又ハ分署(大阪市及接續諸川ニ於テハ安治川水上警察署又ハ分署)ヘ出願スヘシ但允許ノ後ト雖モ天候其他ノ原由ニ因リ危険ト認ムルトキハ之ヲ停止シ若クハ其允許ヲ取消スコアルヘシ(廿四年府令第六十二號ヲ以テ本條中又ハ分署ノ四字追加)

第十八條 凡ソ營業上ニ關シテハ職工雇人等ノ所爲ト雖モ製造者及販賣者一切其責ニ任スヘシ但故意ノ事實アルモノハ此限ニアラス

第十九條 本則第三條第四條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第二項第十七條ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 第十四條 第十五條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第一條 第十二條 第一項ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十五條ノ刑ニ處セラルヘシ

第二十條 本則ニ違背シタル者ハ情狀ニ因リ營業ヲ停止シ若クハ允許ヲ取消スヲアルヘシ

第十節 烟火打揚場所制限

○本達乙第八十九號 明治二十年七月十四日

水上區部 警察署
曾根崎 天王寺

烟火打揚之義ニ付テハ往々危險ノ事モ有之候ニ付自今左ノ通り打揚場所ノ廣狹ニ因リ制限ヲ設ケ候條右ニ照準シ許可取計フ可シ

但打揚ノ時間ハ日出ヨリ午后第十二時迄トス

- 一 澗川筋(中ノ嶋劍崎以東)中央ニ於テハ種類ヲ問ハス總テ許可スヘシ
- 一 全上岐流土佐堀川堂島川安治川木津川等ニ在テハ引火物ハ許可スヘカラス且其他ノ烟火ト雖トモ河流ノ中央ニシテ危險ノ恐れナキ場所ニアラサレハ許可スヘカラス
- 一 前二項外ノ川筋ニ於テハ陸地ノ例ニ據ル
- 一 陸地ニ在リテハ引火物ハ人家ヲ距ル五十間以上其他ノ烟火ハ三十間以上ノ距

離ヲ有ツニアラサレハ可成許可スヘカラス尤モ此距離ニ達セサル場所ニ於テ打揚ヲ出願セシトギハ意見ヲ付シ稟議スヘシ

暴風又ハ風位ニ因リ危險ノ恐れアルキハ許可スヘカラス已ニ許可セシ時ハ打揚ヲ停止スヘシ

一 打揚願ニハ必ス烟火ノ種類ヲ記載セシムルヲ要ス

附 錄 烟火取締規則并ニ管轄廳ニ於テ届出心得及拂下方

▲第三十一號布告 明治十七年十二月二十七日
烟火取締規則別冊之通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

烟火取締規則

第一章 總 則

第一條 凡ソ烟火劇發烟火掃火藥ナイトログリセリンダイハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス

第二條 烟火類烟火劇發火ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京府ハニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限り陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス
 第四條 管轄廳東京府ハニ於テ火藥類ノ檢査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ檢査セシムルコトアル可シ
 第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ケヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ
 第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ證書アレハ翌月十日迄ニ所轄警察署ヘ届出可シ
 第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取り置ク可シ
 第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限り火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未満若クハ白痴瘋癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス
 第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ

坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス(十九年勅令第六十七號ヲ以テ本條改正)

| | | | | |
|------------|--------|---------|------|------|
| 小銃用 | 火藥 | 三百目 | 雷管 | 五百個 |
| 船舶設備銃砲用 | 大砲一門ニ付 | 火藥 五十發分 | 導火管類 | 七十個 |
| | 小銃一挺ニ付 | 火藥 百發分 | 雷管 | 百五十個 |
| 烟火製造用 | 火藥 | 五貫目 | | |
| 坑業土工其他ノ職業用 | 火藥 | 二百貫目 | | |
| | 劇發火藥 | 三十貫目 | | |

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受ク可シ此場合ニ於テハ直ニ陸軍海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得
 第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取り火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス
 第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ(証書アレハ之ヲ添ヘ)翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製
造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之
ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫之外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥
五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス
第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ
第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ
添ヘ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ願出許可ヲ受ケ可シ
第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス
第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱氣
船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ
第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ
鐵釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周
圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標
木曲尺六尺以上ニシテ
五寸角以上ノモノヲ建ツ可シ
第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材本草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又
五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發
火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス

第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケン
トスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハニ
願出許可ヲ受ケ可シ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ
管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ十九年勅令第六十七
號ヲ以テ本條改正
第二十一條 煙火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ
可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ケ可カラス

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場
所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直
ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ
納ム可シ
第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鉄釘鉄輪ヲ用ヒサル木製銅製若
クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ筵包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤
地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺橫二尺五寸水路ヲ建テ護
送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年(八月)第貳百九拾貳號布告危害品船積法
ニ從フ可シ
第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ミ

看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑

法第五百七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五百十八條第五百十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第

十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營

業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(十九年勅令第六十七號ヲ以テ本條中十五字刪除ス)

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一 従前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ

又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現時藏數量ヲ記シ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

一 従前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ従前ノ免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又従前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

▲達第一號 明治十八年一月六日

警視廳(東京府) 縣(ヲ除ク)

明治十七年(十二月)第三拾壹號布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ管轄廳ニ於テ届出方左ノ通可相心得此旨相達候事

一 火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名及火藥庫設置ノ地名番號ヲ記シ内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ
一 營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ毎年一月内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

▲海軍省訓令第五號

明治廿二年五月十日

廳 府 縣

明治十八年(一月)第一號太政官達ニ依リ差出ス火藥類賣買營業許可及其他ノ届ハ自今海軍火藥工廠ニ送付スヘシ

▲陸軍省訓令甲第九號 明治廿三年四月五日 廳 府 縣東京府
 當省火藥類拂下ノ儀從前砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ取扱來候處自今東京砲
 兵工廠及大阪砲兵工廠ニ於テ取扱候條此旨營業人へ達方取計フヘシ
 但拂下手續ノ義ハ從前ノ通

明治十八年陸軍省甲第十號但書拔記

但營業人住所姓名并營業免許証見本豫メ其廳ヨリ本文兩方面へ通知シ置キ營
 業人火藥類拂下出願ノ節ハ必ス營業免許証ヲ携帶セシムヘシ

▲海軍省乙第四號 明治十八年三月二十四日

警視廳東京府
縣(テ除ク)

昨年十二月第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ當省ニ於テハ東京赤羽兵器局ニ於
 テ火藥類拂下候條望ノ者ハ同局へ出願候條營業人へ達方取計フヘシ此旨和達候事
 但營業免許証見本豫テ其廳ヨリ同局へ通知シ置キ營業人ヨリ拂下出願ノ節ハ必ス
 營業免許証携帶セシムヘシ

附 錄 火藥類鐵道運送條規

▲工部省告示第十四號 明治十八年四月十日
 明治五年(五月)第四百十六號公布鐵道略則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規左
 ノ通相定ム但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス

火藥類鐵道運送條規

- 第一條 火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ
- 第二條 火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ連續セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送
 スヘシ但兵員乘車ノ時其携帶スル彈藥ハ此限ニアラス
- 第三條 火藥類ヲ運送スルノ賃金ハ百斤ニ付一哩金一錢二厘ト定ム但三千五百斤
 以下及二十哩以内ト雖モ猶本數本哩ニ當ル金額即チ金八圓四十錢ヲ徵スヘシ
- 第四條 火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載
 シタル書面ヲ四十八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ領受スヘシ其證ナ
 キトキハ之ヲ運送セサルモノトス但非常急劇ノ際ハ此時間ノ限ニアラス
- 第五條 火藥類ノ受渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日没前ニシ
 テ鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ
- 第六條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ストキハ其桶箱等ハ成ルヘク互ニ手渡ヲ
 爲シ決シテ地上ニ投下シ又ハ輾轉セシムヘカラス若シ輾轉セサルヲ得サルトキ
 ハ必ス草布木綿等ヲ以テ其經過スヘキ地上ヲ蔽フヘシ
- 第七條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鉄或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ
 又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吸烟スルヲ許サス
- 第八條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始ムルトキハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖モ猶

豫スヘカラス又其事ニ預ラサル他人ノ其場ニ近クナ防クヘシ

- 第九條 火藥類停車場若クハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタルトキハ六時間以内ニ其受取方ヲ爲スヘシ此時間ヲ過クレハ一時間毎ニ一噸ニ付金二圓ノ遲滯料ヲ徴スヘシ
- 第十條 鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚荷積ノ爲メ火藥類ニ生シタル損害并ニ之ニ原因シテ他ニ及ヒタル損害ハ勿論其他何等ノ事アルモ其責ニ任セサルモノトス但鐵道局員ノ過失ニ因テ起ルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 火藥類ノ運送ヲ委託スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證トシテ鐵道局ヨリ下付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

附 錄 危害品船積規則

▲第二百九十二號布告 明治六年八月九日

- 危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚タシキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件之法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事
- 一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂漿液并ニ腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候トキハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後テ差出

スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ルモノハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

- 一 尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候トキハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事
- 但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之トキハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然レトモ其荷物中ニ危害品有之トキハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ストキハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一 此ノ危害品ヲ既ニ船積シタル後チニ見出シ之レヲ安全ノ場所ニ保チ難キトキハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之レヲ海中ニ投棄シ着港上直チニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但シ投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事

一 船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合セ此ノ危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積ミシ或ハ船積ミセント謀ルモノハ金五百圓以内又チ見出スト雖モ官ニ訴ヘ出サルトキ

ハ金貳百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十一節 劇藥授受取締

●府令第八十號

明治二十二年十一月八日

府令第八十號ニ係ル取扱手續ハ全テ三號ヲ以テ定ム

醫師藥劑師藥種商製藥者ヲ除クノ外格魯兒酸加留謨(エリツサンカルム)鹽素酸加留謨(エリツサンカルム)又ハ鹽酸加里(エリツサンカリ)ヲ賣買授受セントスルトキハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ檢査スルヲアルヘシ(廿三年府令第十二號ヲ以テ醫師以下十六字改正)

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

書式

一格魯兒酸加留謨

右ハ(醫業)(何工職用等何々必要ニ付(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍何府何市郡何町何番地族籍職業

現住所何府何市郡何町何番地(何某方寄留)

(買主)(受主) 氏 名 印

年 齡

年 月 日

大阪府市郡何町何番地(寄留)族籍職業

賣主(授主) 氏 名 印

年 齡

何警察署 御 中

附 錄 爆發物取締罰則

▲第三十二號布告 明治十七年十二月二十七日
爆發物取締罰則別冊之通制定ス

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上

三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ
第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

第四章 非常召集及火防ニ關スル制規

第一節 非常召集内規

○本達乙第百十號 明治二十年九月二十七日

警第一課

非常召集内規左ノ通り定ム

非常召集内規

第一條 召集ハ非常事變ニ際シ小數ノ人員ヲ以テ警戒防止スルヲ能ハサル片之ヲ行フモノトス

但演習ノ爲メ平時ニ於テ行フアルヘシ(廿年本達乙第百四十三號ヲ以テ本項追加)

第二條 召集ヲ別ツテ大召集小召集ノ二種トシ大召集ハ警部長之レヲ行ヒ小召集ハ署長(分署長包含ス)之ヲ行フ

第三條 大召集ハ各警察署分署ノ總員又ハ其幾分ヲ限リ召集シ小召集ハ所屬ノ總員又ハ其幾分ヲ召集スルモノトス

第四條 人員ノ屯集所ハ其警察署ヲ以テ之レニ充ツ但特ニ指定シタル場合ハ此限ニアラス

第五條 大召集ノ命ニ依リ總員ノ過半数以上參集シタルハ署長ハ直ニ警部長ニ報告シ其指揮ヲ待ツヘシ

第六條 各警察署ニ於テハ第十一條ニ從ヒ厚紙製ニテ警部巡查ノ氏名宿所ヲ詳記シタル召集票ヲ備ヘ置クヘシ

第七條 召集票ハ召集ノ場合ニ於テ在番ノ巡查若クハ小使ヲ以テ便宜迅速ニ配付スヘシ

第八條 召集票ノ配付ヲ受ケタルモノハ直ニ正裝ヲナシ屯集所ニ參集シ其票ヲ上官ニ差出シ指揮ヲ待ツヘシ但シ正當ノ事故アリテ其屯集所ニ至ル丁能ハサルハ最近ノ屯集所ニ至リ其趣届出ヘシ

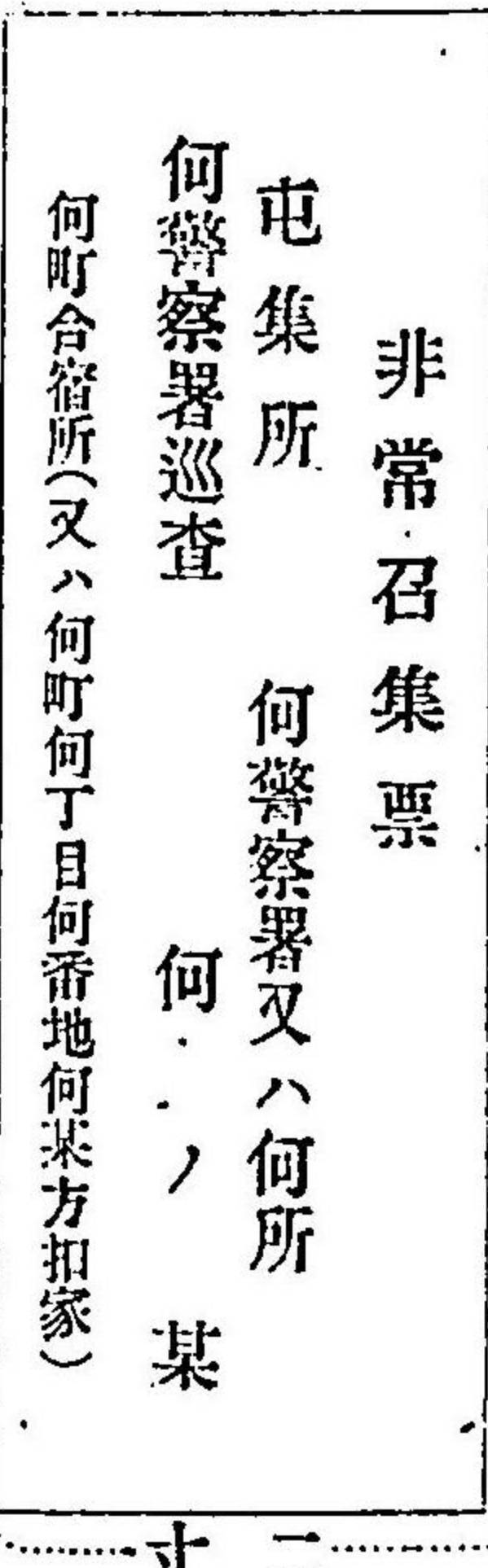
第九條 屯集ニ應スルヲ要セサルモノ左ノ如シ

- 一 疾病ニ罹リ入院又ハ自宅療養中ノモノ
- 二 皆勤休暇ニシテ旅行中ノモノ
- 三 看護歸省中ノモノ
- 四 陸軍點呼召集中ノモノ

第十條 各警察署長ハ召集解散後二十四時間内ニ遅刻又ハ不參ノ人員ヲ取調警部長ニ報告スヘシ

第十一條 非常召集票ハ左ノ雛形ニ從ヒ調製スヘシ

五寸



第二節 大阪市消防事務中部長執行項目

●應達第六十二號 明治二十二年十一月廿日 警察本部

大阪市消防事務中左ニ掲グルモノハ警察本部長之ヲ執行ス可シ

- 一 消防組ノ指揮命令ニ關スル事
- 二 機關手以下及消防醫ノ進退賞罰ニ關スル事
但賞與ス可キ金額ハ市參事會ノ議決ヲ經可キモノトス其急施ヲ要スル場合ニ於テハ施行ノ後之ヲ報告ス可シ
- 三 費額金三拾圓未滿ノ需用品購入又ハ修繕ニ關スル事

第三節 警察官吏非常心得

●丁第五十五號 明治十五年四月十七日 警察本部

市街署長ハ其勤務スル其官署ノ八丁以内ニ住居シ非常事故ニ支障無之様可致此旨相達候事(市街ノ上十六字ハ自然消滅ニ付略ス)

○丁第六十八號 明治十五年六月二日 警察本署

警察本署第一部警部及各署長并ニ内外勤警部巡查非常警戒ノ爲夜間十二時後必ス在宅可爲致此旨相達候事

但從前ノ達等本文ニ抵觸スルモノハ渾テ消滅下心得ヘシ

○本甲第二百廿五號 明治十六年十二月廿二日 警察署

但從前ノ達等本文ニ抵觸スルモノハ渾テ消滅下心得ヘシ

○本甲第二百四十號 明治十六年二月廿五日 警察署

自今巡查非番之節他管下ニ出向スルルハ必ス所屬長ノ許可ヲ受ク可シ此段及通達候也但管内ト雖三里以外ニ出行スルルハ其所ヲ詳記シタル届書ヲ差出スヘシ

○本甲第四十號 明治十八年四月十三日 警察署

出火ノ節左ノ場合ニ在テハ非番警部同補及御用掛雇員等迅速其所署へ出頭セシムヘシ尤モ火勢ノ模様ニ依リ直ニ現場へ出張セシムルモ不苦此段及通達候也

但十六年本甲第九十一號ハ取消ス

一商船取締所及安治川水上警察分署ハ其所在地三丁以内又ハ三點信號アルトキ

一區部警察署ハ其部内ノ出火又ハ三點信號アルル

一郡部各警察署分署ハ其所在地及接續町村ニ出火アルル

○本達乙第六十四號 明治廿一年十月二日 各課

府廳三丁以内ノ出火又ハ非常大火ノ節ハ(直接消防事務ニ關係アルモノヲ除ク)各課員悉ク本部へ出頭スヘシ

○本達第八十五號 明治二十三年十月廿一日 水上警察署

機關手以下勤務心得

機關手以下勤務心得

第一條 機關手及水火夫常備消防手ハ一晝夜勤務一晝夜ノ休務トシ組頭以下豫備消防手(一等等消防手ヲ云フ以下全シ)ハ出火ノ際勤務ニ服スルモノトス

但シ時宜ニ依リ臨時勤務ヲ命スルコトアルヘシ

第二條 機關手及ヒ水火夫常備消防手ハ毎朝指揮官ノ點檢ヲ受クヘシ

但點檢時間ハ指揮官ニ於テ便宜之ヲ定ム

第三條 機關手ハ交代前蒸氣唧筒諸機關部及附屬器械ノ點檢ヲ受クヘシ

第四條 常備消防手ハ毎朝交代前組頭以下豫備消防手ハ出火ノ翌日及一ヶ月二回唧筒

筒及吸水管、輜重車其他諸器具等ノ點檢ヲ受クヘシ

第五條 水夫ハ船体及諸器械等毎月一回指揮官ノ點檢ヲ受クヘシ
第六條 常備消防手ハ每一時間交代ヲ以テ晝夜火ノ見櫓ニ登リ見張ヲ爲シ出火アル
ヲ見認メタルルハ成規ノ信號ヲ報スヘシ

第七條 組頭以下豫備消防手ハ毎夜十名宛各消防組輪番ヲ以テ夜詰ヲ爲シ詰所ニ於
テ每一時間順次交代見張ヲ爲スヘシ
但勤務時間ハ指揮官ニ於テ之ヲ定ム

第八條 消防組詰所ニ在テハ左ノ件々ヲ禁ス

- 一 行厨ノ外飲食スルヲ
- 一 濫リニ高聲ヲ發シ又ハ放歌スルヲ
- 一 私ニ外出スルヲ

第九條 出火アルルハ機關手以下當非番ニ拘ハラス直ニ所屬唧筒置場ヘ駆付左ノ順
序ニ從ヒ速カニ出場ノ用意ヲ爲シ指揮官ノ命令ヲ待ツヘシ

- 一 機關手及水夫ハ夜間ハ點燈シ汽鐘ノ水量其他諸機關緊要ノ部分ニ異狀ナキ
ヤ注意スヘシ
- 一 水夫ハ船体進行ノ用意ヲ爲スヘシ

- 一 組頭以下ハ其組ニ屬スル器械ヲ現場ヘ運搬スルノ用意ヲ爲スヘシ

但部内ノ出火ニ限リ三番消防組爲方ノ者ハ指揮官ノ命令ヲ待タス直ニ出火
場ヘ駆付迅速火烟ヲ撲滅スヘシ

第十條 出火場ヘ出張スルルハ迅速ヲ要スルト雖モ通行人ニ對シ粗暴ノ舉動ヲ爲ス
ヘカラス

第十一條 出火場ニ在テハ指揮官ノ指定シタル火掛口ノ外ニ私ニ進退スヘカラス

第十二條 出火場ニ於テノ動作ハ敏活ニシテ躊躇ノ弊ナキヲ要スルト雖モ家屋ヲ毀
崩スルカ如キ場合ハ必ス指揮官ノ命ヲ待ツヘシ

第十三條 出火場ニ於テ爆發物等ノ危險物又ハ燃易キ物体ヲ見認メタルルハ直ニ指
揮官ニ申告スヘシ

第十四條 常備消防手ハ毎日(大祭日、日曜日ヲ除ク)二時間以内組頭以下豫備消防手ハ一
ヶ月二回宛消防技術ノ演習ヲ爲スヘシ
但時宜ニ依リ各消防組ヲ召集シ實地演習ヲ行フコトアルヘシ

第十五條 機關手以下勤務ニ服スルルハ必ス成規ノ服裝ヲナシ必用ノ物品ヲ携帯ス
ヘシ

但休務ノ際自己ノ職業ヲ營ムルハ給與品ヲ一切使用スルヲ得ス

第十六條 消防器械又ハ給與ノ器具等破損若クハ亡失シタルルハ直ニ其理由ヲ詳記
シ修繕又ハ引換方ヲ申出ヘシ

第十七條 機關手及ヒ水火夫常備消防手ハ休務ノ片ト雖モ夜間十二時後ハ必ス在宅スヘシ

但止ムテ得サル事故アリテ外泊セサルヲ得サル片ハ其旨願出許可ヲ受クヘシ
第十八條 機關手及水火夫常備消防手病氣ニ罹リ勤務ニ服シ難キ片ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ヘシ

但引續キ療養スル片ハ一周間毎ニ届出ヘシ

第十九條 前條不治ノ病ニ罹リ一ケ年通シテ六十日以上勤務ニ服セサルモノハ職務ヲ免スルコアルヘシ

第二十條 機關手及水火夫常備消防手ハ父母疾病ニ罹リ他ニ侍養者ナキ片ハ往復日數ヲ除クノ外二週間以内歸省看護ヲ許可スルコアルヘシ

但看護中自己病氣ニ罹リ若クハ往復ノ途中天災其他避クヘカラサル事故ニ遭遇シ許可ノ日數内ニ歸阪シ難キ場合ハ其地ノ警察署又ハ分署ノ証明書ヲ添ヘ其旨届出スヘシ

第二十一條 組頭以下豫備消防手ニシテ大阪接續町村外ノ地ヘ一泊以上ノ旅行若クハ病氣等ニテ勤務ニ服シ難キ片ハ其旨届出ツヘシ其歸宅全癒シタル片ハ亦全シ
第二十二條 機關手以下ノ名刺ハ左ノ雛形ノ如ク調製シ勤務ニ服スル片ハ必ス携帯スヘシ

三寸



第五節 大阪市消防規則

○大阪市告示第十二號 明治二十二年十月一日

消防規則

(廿三年大阪告示第十六號全第四十六號廿四年大阪告示第二號ヲ以テ本則中ヲ改正)

第一條 消防組ハ左ニ掲グルモノヲ以テ組織ス

- 機關手 水夫
- 火夫 組頭 小頭
- 常備消防手 一等消防手 二等消防手

第二條 消防組ノ名稱及配置人員左ノ如シ

| | | | | |
|--------|-------|-----|-------|----|
| 東消防一番組 | 機關手 | 壹人 | 機關手補 | 壹人 |
| | 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| | 常備消防手 | 貳拾人 | 一等消防手 | 五人 |

| | | | |
|--------|-----|-------|------|
| 二等消防手 | 拾五人 | 小頭 | 壹人 |
| 東消防二番組 | 壹人 | 二等消防手 | 拾七人 |
| 一等消防手 | 五人 | 小頭 | 壹人 |
| 東消防三番組 | 壹人 | 二等消防手 | 拾七人 |
| 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 西消防一番組 | 拾人 | 二等消防手 | 貳拾貳人 |
| 機關手 | 壹人 | 機關手補 | 壹人 |
| 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 常備消防手 | 貳拾人 | 一等消防手 | 五人 |
| 二等消防手 | 拾五人 | 小頭 | 壹人 |
| 西消防二番組 | 壹人 | 二等消防手 | 拾七人 |
| 組頭 | 五人 | 小頭 | 壹人 |
| 一等消防手 | 五人 | 二等消防手 | 拾七人 |
| 西消防三番組 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |

| | | | |
|--------|-----|-------|------|
| 一等消防手 | 拾人 | 二等消防手 | 貳拾貳人 |
| 南消防一番組 | 壹人 | 機關手補 | 壹人 |
| 機關手 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 組頭 | 壹人 | 一等消防手 | 五人 |
| 常備消防手 | 貳拾人 | 小頭 | 壹人 |
| 二等消防手 | 拾五人 | 一等消防手 | 五人 |
| 南消防二番組 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 組頭 | 五人 | 二等消防手 | 拾七人 |
| 一等消防手 | 五人 | 小頭 | 壹人 |
| 南消防三番組 | 壹人 | 二等消防手 | 拾七人 |
| 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 北消防一番組 | 拾人 | 二等消防手 | 貳拾貳人 |
| 機關手 | 壹人 | 機關手補 | 壹人 |
| 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 常備消防手 | 貳拾人 | 一等消防手 | 五人 |
| 二等消防手 | 拾五人 | 小頭 | 壹人 |

| | | | | |
|--------|-----|-------|-------|------|
| 北消防二番組 | 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 一等消防手 | 五 | 人 | 二等消防手 | 拾七人 |
| 北消防三番組 | 組頭 | 壹人 | 小頭 | 壹人 |
| 一等消防手 | 拾 | 人 | 二等消防手 | 貳拾貳人 |
| 水上消防手組 | 機關手 | 壹人 | 水夫 | 壹人 |
| 火夫 | 壹人 | 小頭 | 壹人 | |
| 一等消防手 | 貳人 | 二等消防手 | 三人 | |

第三條 三番組ヲ別手組トナシ輕便ノ器具ヲ携ヘ直ニ現場ニ駆付ケ消防ニ從事ス

第四條 機關手機關手補ハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケ機關一切ノ事ヲ掌ル

第五條 火夫ハ警察官吏及機關手ノ指揮ヲ受ケ氣罐部ヲ分掌ス

第六條 水夫ハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケ氣罐部ノ運轉ヲ掌ル

第七條 組頭ハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケ消防ニ從事シ兼テ小頭以下ヲ監督ス

小頭ハ組頭ヲ輔ケ消防ニ從事ス

常備消防手及ヒ消防手ハ小頭以上ノ指揮ヲ受ケ專ラ消防ニ從事ス

第八條 消防醫ヲ置キ機關手以下ノ負傷者ヲ治療セシム

第九條 機關手機關手補ハ機關手ノ免狀ヲ有スル者又ハ之ト同一ノ學力經驗アル者水火夫ハ水火夫ノ經驗アルモノヨリ採用シ組頭并ニ小頭ハ消防手ノ内ニ就キ拔擢スルモノトス

第十條 常備消防手消防手ハ總テ志願者ヨリ採用スルモノトス

常備消防手消防手ヲラントスル者ハ別紙様式ニ依リ保証人連署ヲ以テ警察本部ニ願出ツヘシ

常備消防手消防手ヲ志願シ得ヘキ者ハ年齢二十歳以上四十歳以下ノ男子ニシテ消防器械配置場ヨリ八丁以内ニ住居ヲ占メ二ケ年以上勤務ニ故障ナク且略ホ消防ノ經驗アル者ニ限ル但左ニ掲グルモノハ志願スルヲ得ス

- 一 身幹五尺ニ滿タサル者
- 二 身体羸弱ナル者
- 三 身分不相應ノ負債アル者
- 四 品行不正又ハ酒癖アル者
- 五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 六 本則ニ依リ免職處分ヲ受ケ爾後滿二ケ年ヲ經過セサル者

第十一條 機關手以下消防上拔群ノ功勞アル者又ハ特別勉勵ノ者ハ一人ニ付金五圓

以下ヲ賞與スルコトアルヘシ

- 第十二條 機關手以下左ノ各款ニ該當スル所爲アルトキハ情狀ニ依リ呵責又ハ月俸一ヶ月ヨリ多カラサル罰金若クハ免職ノ處分ヲ爲スヘシ但第九款ニ該當スルモノハ時宜ニ依リ相當ノ賠償ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 一 指揮官又ハ上級者ノ指揮ニ遵ハサル者
 - 二 出火場ニ於テ私ニ進退シ又ハ猥リニ飲食等ヲ爲シタル者
 - 三 出火場ニ於テ爭論其他喧噪ノ所爲アル者
 - 四 正當ノ事由ナク勤務ニ服セサル者
 - 五 出火場ニ於テ私ニ家屋其他ノ物件ヲ破毀シタル者
 - 六 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ
 - 七 職務ニ關シ私ニ金品ヲ受理シ其他不正ノ所爲アルモノ
 - 八 奉職ニケ年未滿ニシテ退職願出タルモノ
 - 九 故ラニ消防器械ヲ破毀又ハ遺棄シタル者
- 第十三條 機關手以下ハ別表ニ依リ給料ヲ給ス
- 第十四條 消防器械ノ配置員數及機關手以下ノ服制其外徽章ハ別表ニ據ルヘシ
- 第十五條 機關手以下ニ支給スル手當金其他給與ニ關スル規則ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ

(別紙) 消防手志願書式

消防手志願書

府下何區何町何番地住(寄留)

何府縣何郡市何町村何番地

身分戸主何某長次男

職業 何

何年何月生

私儀消防手志願ニ付御試驗ノ上御採用相成度然ル上ハ二ケ年未滿ニシテ退職願出候儀決テ無之候間此段相願候也

年 月 日 志願人 何 某 印

右何某消防手志願ニ付御採用之上ハ全人一身上ハ勿論職務名義ヲ以テ負債等ヲシタルハ屹度辦理可仕候也

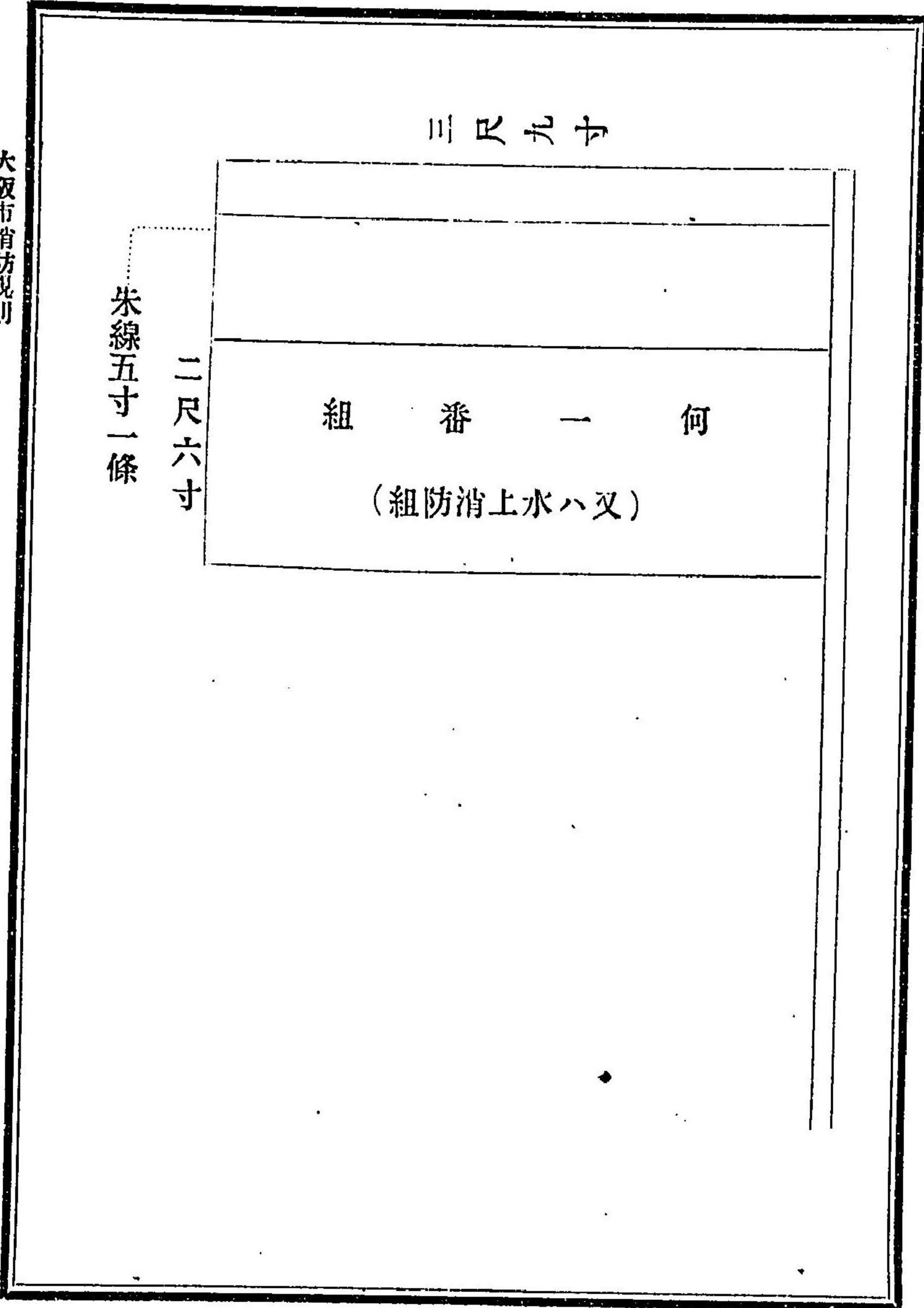
府下何區何町何番地住(寄留)

何府縣何郡市何町村何番地

士族平民

保証人 何 某 印

警察本部宛



| 弓張 | 斧 | 大網 | 鐵鉤 | 水管卷車 | 斧鳶口 | 鳶口 | 竹梯子 | 折梯子 |
|----|----|----|----|------|-----|-----|-----|-----|
| 二 | | | | 一 | 二 | 10 | | 一 |
| 二 | | | | | 二 | 10 | 一 | |
| 二 | 一五 | 二 | 二 | | 二 | 10 | 一 | |
| 二 | | | | 一 | 二 | 10 | | 一 |
| 二 | | | | | 二 | 10 | 一 | |
| 二 | 一五 | 二 | 二 | | 二 | 10 | 一 | |
| 二 | | | | 一 | 二 | 10 | | 一 |
| 二 | | | | | 二 | 10 | 一 | |
| 二 | 一五 | 二 | 二 | | 二 | 10 | 一 | |
| 二 | | | | 一 | 二 | 10 | | 一 |
| 二 | | | | | 二 | 10 | 一 | |
| 二 | 一五 | 二 | 二 | | 二 | 10 | 一 | |
| 一 | | | | 一 | 一 | 五 | | |
| 二五 | 六〇 | 八 | 八 | 五 | 二五 | 一一五 | 八 | 四 |

朱線一寸三條

二尺六寸

三尺九寸

何 三 番 組

朱線二寸二條

二尺六寸

三尺九寸

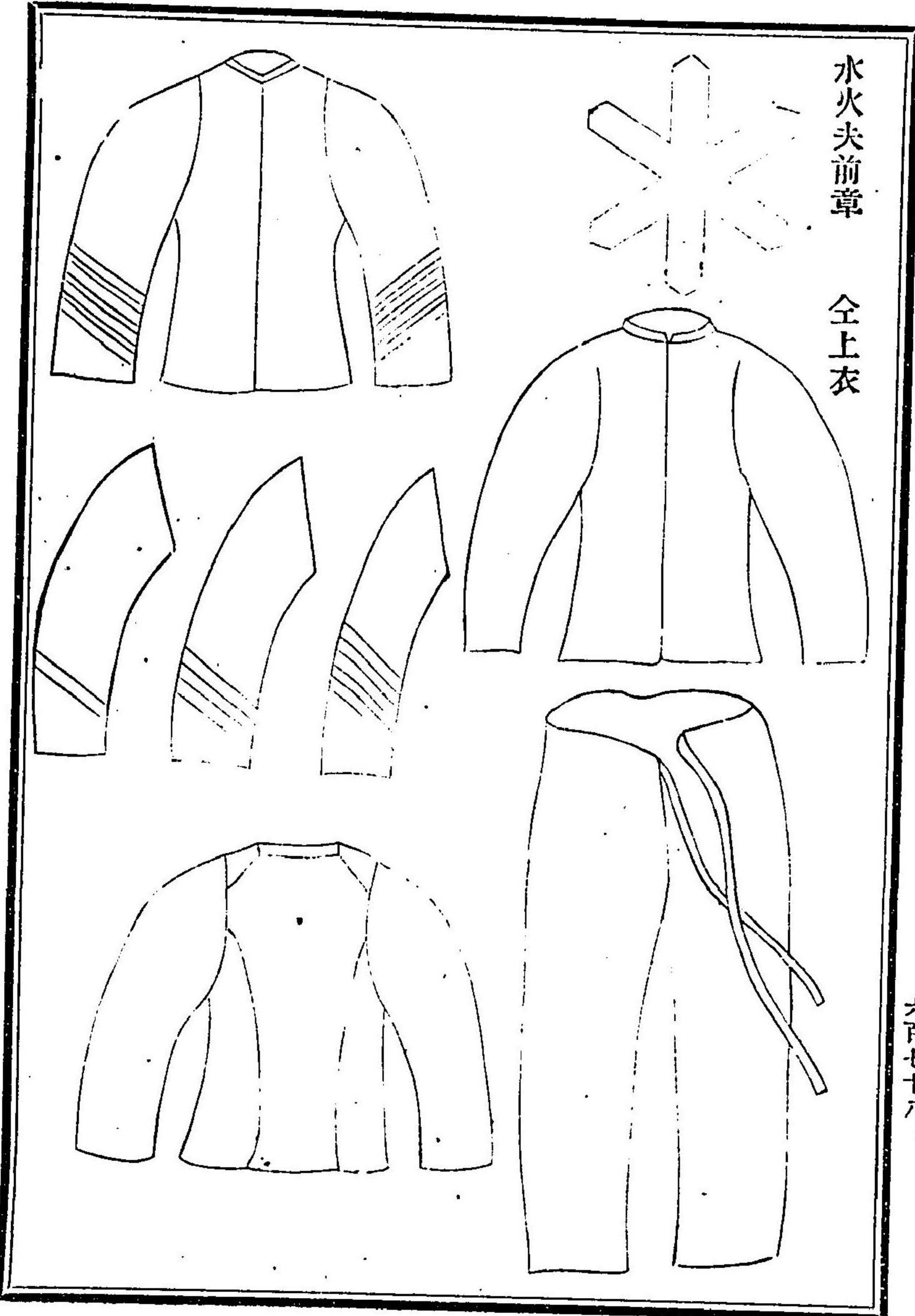
何 二 番 組

(全上) 消防組服制

| 種別 | 正 | | 帽 | | 肩章 | 正 | |
|-------|---------------|-----|------------|---|----|------|-------------|
| | 前章 | 帽質 | 帽 | 章 | | 地質 | 袖章 |
| 機關手 | 眞鍮日章扇シ方一寸二分 | 黑羅紗 | 黑琥珀一寸一條 | | | 紺羅紗 | 黑毛絨五分二條 |
| 機關手補 | 同 | 同 | 同 | | | 紺小倉同 | 五分一條 |
| 水火夫 | 眞鍮水ノ字扇シ方一寸二分 | 同 | 朱毛糸同 | | | 同 | |
| 組頭 | 眞鍮消防組ノ頭字方一寸八分 | 黑皮製 | 朱線八分二條四分二條 | | | 同 | 赤毛絨一寸二條五分二條 |
| 小頭 | 同 | 同 | 同 | | | 同 | 同 |
| 常備消防手 | 同 | 同 | 同 | | | 同 | 同 |
| 一等消防手 | 同 | 同 | 同 | | | 同 | 同 |
| 二等消防手 | 同 | 同 | 同 | | | 同 | 同 |



水火夫前章 全上衣



弓張提燈



第六節 消防手採用手續

○本達第八十號 明治廿三年十月四日
消防手採用手續左ノ通定ム

水上警察署

消防手採用手續

- 第一條 消防手ハ試験ノ上採用スルモノトス
- 第二條 消防手ノ試験ハ所屬警察署長之レヲ行フヘシ
- 第三條 消防手志願者ハ左ノ條項ヲ逐次ニ試験シ合格ノモノニアラサレハ採用スル事ヲ得ス
 - 一 年齢二十年以上三十五年以下ノモノニシテ徴兵ニ相當セサルモノ
 - 二 身幹五尺壹寸以上ノモノ
 - 三 身体強壯五官ノ機能ヲ具備シタルモノ
 - 四 三十秒乃至一分時間片腕ヲ以テ自己ノ体重ヲ保持スルモノ
 - 五 塙ニ攀テ登リ屋上ヨリ飛下スルカ如キ輕術ヲ爲シ得ル者

消防手採用手續

六 滿二ケ年間勤務ニ差支ナキ者
七 消防規則ヲ讀ミ得ル者

第四條 前條ニ合格スルモノト雖モ消防規則第十條但書ノ各項ニ該當スルモノハ採用スルコトヲ得ス

第五條 試験合格ノモノハ其成績ヲ検査表ニ明記シ警察署長之レニ意見ヲ付シ警察本部長ヘ具申スヘシ

第六條 此採用手續ハ専ラ常備消防手ニ適用スルモノニシテ他ノ消防手ハ斟酌シテ試験スルモノトス

消防手検査表

| 原籍身分職業姓名 | 生年月日 | 産所 | 寄留所 |
|----------|------|----|-----|
| | | | |

| 身丈 | 體格 | 検査醫員姓名 | 履歴 | 輕術 | 讀書筆跡 | 實父母姓名 存亡年齢 | 養父母名存亡年齢 | 妻有無 |
|----|----|--------|----|----|------|---------------|----------|-----|
| | | | | | | | | |

| | |
|-----------------------|--|
| 子員數 | |
| 兄弟姉妹員數 | |
| 財産概額 | |
| 保證人ノ住所及原籍 身分職業姓名年齢 | |

右検査候處合格ノ者ト確認候也

明治年月日

大阪府警部

第七節 火災消防心得

○本達第六十號 明治廿三年六月二十日
火災消防心得左ノ通相定ム

水上警察署

火災消防心得

第一條 大阪市火災消防ニ關スル一切ノ事務ハ警察本部ニ於テ主管シ管轄警察署之ヲ分掌ス

第二條 火災消防ノ指揮命令ハ警察本部長之レヲ總理ス

第三條 警察本部警務課詰警部。部補ハ警察本部長ノ命ヲ受ケ平時ニ在テハ消防事務ノ整否及消防器械ヲ監査シ出火ノ際ハ直ニ現場ニ出張傳令及視察ニ從事スヘシ

第四條 警察本部長事故アリテ出火場エ出張セサルハ警務課長其職務ヲ代理スヘシ

第五條 警察署長ハ左ノ事務ヲ分掌シ第一項乃至第三項ハ之レヲ專行シ第四項乃至第六項ハ意見ヲ附シ警察本部長工具申スヘシ

一 機關手以下ヲ指揮監督スル

二 消防機械ヲ管理スル

三 消防組ノ名簿ヲ整備スル

四 機關手以下ノ進退賞罰ニ關スル

五 機關手以下ノ吊祭扶助ニ關スル

六 消防手志願者ノ採用ニ關スル

第六條 出火アルハ警察署長ハ所屬ノ消防組ヲ引率迅速現場ヘ參集警察本部長出場アル迄ハ適宜消防ニ從事スヘシ

第七條 出火場ニ出張シタルハ唧筒据付ノ場所及ヒ火掛口ヲ豫定シ置キ其順序ヲ

誤ラサル様敏活ノ働チナスヘシ

第八條 出火場ニ於テハ危難ニ陥リタル人ノ有無ヲ搜索シ次ニ發火ノ原因即チ媒介物質ヲ鑑定シ適切ナル救護及消防法ヲ施スヘシ

第九條 屋内ヨリ發火シタルルハ空氣ノ流通ヲ閉塞セシムルカ爲消防上必用アル戸口ノ外開放スヘカラス火氣既ニ屋内ニ充滿シタルルハ家屋ノ上部ヲ破壊シ火焰ヲ扱キ專ラ他ノ延焼ヲ防グヘシ

第十條 燒点ノ防禦ハ火先ノ正面又ハ左右側面ヨリ進ミ火勢猛烈ナリト雖モ警察本部長ノ命令アルニアラサレハ其場ヲ轉ス可カラス

第十一條 唧筒ハ消防上便利ノ道筋ヲ選ミ河岸ノ低地ニ据付吸管ヲ斜ニ卸ロシ吸水ノ便利ヲ量ルヘシ

第十二條 唧筒ノ備ヘチ爲ストキ吸水ノ高低及水管ノ長短ニ依リ突出管ノ大小ヲ定ム可シ

第十三條 燒点ニ水ヲ注射スルルハ火勢又ハ現場ノ模様ニ依ルヘシト雖モ概子上段ヨリ下段ヘ向テ注射スヘシ

第十四條 火氣既ニ蔓延大火トナリ容易ニ鎮防ノ見込ナク萬止ムヲ得サル場合ハ火先ノ明地又ハ道路ヲ以テ防火ノ一區域ト定メ未タ燃移セサル家ト雖モ迅速破壊シ襲火ヲ遮斷スヘシ

但本條ノ場合ハ必ス警察本部長ノ指揮ヲ請フヘシ

第十五條 水利不便ノ地ニ於テ出火アルル夥多ノ唧筒ヲ一時ニ使用スル時ハ共ニ唧筒ノ効用ヲ失スルコトアリ故ニ必用ノ唧筒ノミヲ使用シ其他ハ聯續使用法ヲ以テ最近ノ水源ヨリ順次水ヲ供給スヘシ

第十六條 出火場エ消防組ヲ派遣スルルハ巡查若干名ヲ以テ消防組ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第十七條 消防組ニ係ル號令ハ總テ喇叭ヲ以テス

第十八條 出火地所轄警察署喇叭手ハ始終警察本部長ニ附隨スヘシ

第十九條 鎮火引揚ノ令アリタルル警察署長ハ適宜ノ場所ニ於テ消防組ヲ整列セシメ人員及ヒ諸器械ヲ点檢スヘシ

第二十條 鎮火后別表ニ準シ出火ノ原因等詳細調査シ畧圖ヲ添ヘ警察本部ヘ報告スヘシ

但出火地所轄警察署ハ火氣全ク鎮消スルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

第二十一條 消防器械ノ破損若クハ亡失シタルルハ關係者ノ手續ヲ添ヘ其旨警察本部長ヘ具申スヘシ

第二十二條 消防器械ヲ使用シタル后ハ充分掃除ヲナシ有事ノ際差支ナキ様備ヘ置クヘシ

第八節 出火場警備心得及船舶火災警戒

并報告

○本達乙第五拾二號

明治十九年十月九日

安治川水上市部 警察署

會根崎天王寺 (廿四年警達第三十九號ヲ以テ會根崎天王寺ノ兩署追加)

出火場警備心得左ノ通相定ム

出火場警備心得

- 第一條 所轄内ニ出火アルトキハ非番巡查ハ直ニ現場ニ駆付警備ニ從事シ他ノ管轄内ニ出火アルトキハ非常豫備巡查ハ所轄署ヘ駆付指揮ヲ待ツヘシ
- 第二條 前條非常豫備巡查ハ其出火直ニ鎮火ノ模様ナキ時ハ警部警部補之レヲ引卒現場ニ駆付應援ヲ爲スヘシ(廿一年本達第六十一號ヲ以テ本條中改正)
- 第三條 安治川水上警察署ハ巡回船二艘同分署ハ各一艘ヲ現場ニ派シ河岸地ノ出火ニシテ容易ニ鎮火ノ模様ナキトキハ仍ホ本署ハ三艘分署ハ各一艘ヲ派遣シ應援スヘシ(全上達ヲ以テ第三條ヲ消除シ第四條ヲ本條トシ以下順次繰上ケ尚條中追加)
- 第四條 警備ノ方面ハ各警察署ノ火掛口ヲ以テ區畫トス(全上達ヲ以テ條中改正)
- 第五條 出火焼点ヨリ方二丁以内ヲ以テ防火線ト定メ專ラ消防組ノ進退及器具運搬ノ便利ヲ得セシム可シ

第六條 防火線内ハ左ノ關係アルモノ、外入ラシム可ラス

- 一 線内ニ住居シ又ハ家屋船舶等ヲ所有スル者
- 二 線内ニ親戚故舊アリテ救援スル者
- 三 線内ニアル社寺學校病院銀行會社等ヘ勤務スル者
- 四 公務ヲ帶フル者
- 五 出火場立入鑑札ヲ携帶スル者

第七條 道路狹隘ニシテ消防ノ自由ヲ得ス若クハ危險ト見認ムル場合ハ前條ニ定ムル者ト雖モ線内ヲ立去ラシム可シ

第八條 消防ニ供スル水ヲ運搬スル爲必要ノ場合ハ防火線外ト雖モ車馬又ハ一般ノ通行ヲ遮斷スヘシ

第九條 出火場警備員ハ左ノ諸項ニ注意スヘシ

- 一 老幼疾病及危險中ノ人ヲ救援スルコト
 - 二 家財ヲ散逸セシメス及運搬ノ便利ヲ得セシムル事
 - 三 傍盜拐帶等ヲ警戒スル事
 - 四 傍觀人ヲ制シ道路ノ壅塞ヲ啓發スル事
 - 五 負傷人アリタルハ治療ノ手續ヲ爲サシムルコト
- 第十條 出火場出張ノ巡查ハ防火線警護ノ外ハ帶劍セサルモ妨ケシ

廿四年警達第三十九號ヲ以テ本條追加

○本達乙第百三十號 明治二十年十二月七日 水上警察署
木津川船園所ハ頻年十月ヨリ翌年三月ノ間數百ノ礙警船有之火災警戒ヲ要シ候條巡
査巡回ノ際特ニ注意セシムヘシ

○本乙第九十七號 明治十七年十二月十八日 安治川水上警察署
大阪四區及接續町村河港内ニ於テ船舶火災ニ罹リ候節ハ自今左ノケ條ヲ調査シ略圖
ヲ添ヘ可届出此段及通達候也

- 一 出火及鎮火ノ時刻
- 一 出火原因若シ不詳ナル時ハ其見込ヲ記ス
- 一 燒失又ハ半燒
 - 但氣船帆走船(帆走船ハ日本形ト西洋形トヲ區別ス)石數及噸數
- 一 燒失貨物ノ物質及其個數ノ概略
- 一 人畜ノ死傷
 - 但負傷者ハ其傷ノ輕重ヲ區別ス
- 一 前項ハ官吏(巡查モ之レニ包含ス)一般人民トヲ區別ス

第九節 出火信號及揭示報告

●告示第百十四號 明治廿一年九月十五日

出火信號左ノ通改正ス

但社寺學校等其他私設ノ警鐘ハ總テ之レニ準據スヘシ

出火信號

第一信號

○—○—○—○—○—○—○—○

第二信號

○—○—○—○—○—○—○—○

第三信號

○—○—○—○—○—○—○—○

第四信號

○—○—○—○—○—○—○—○

此信號ハ郡村ノ出火ニ報スヘシ

此信號ハ鎮火ト見認メタルトキ一回限リ報スヘシ

○—○—○—○—○—○—○—○

○警乙第一三三號 明治二十四年二月十九日 水上四區會根崎
天王寺ノ各署
四區接續町村出火之際警鐘打方ノ者ニ於テ方角唱呼之義豫テ警部長ヨリ口達ノ次第

モ有之御示談ニ及ヒ置キタル處實地打方ノ者ニアリテハ全ク唱呼スル者モ無之哉ニ聞込ミ甚不都合ニ有之候條自今ハ必ス唱呼候様御取計相成度警部長ノ命ニ依リ此段及御照會候也

●廳達第六十三號

明治廿二年十一月廿日

警察本部

大阪市内ニ出火アルトキハ即報式ニ依リ略圖ヲ製シ其旨所轄警察署ヨリ市參事會ニ報告セシムヘシ

○甲第百五號

明治十一年九月十九日

各署

向後出火電報揭示方ノ義第一報第二報ト順次張出紙へ番號ヲ付シ張出シ候様可致此段及御回達候也

○乙第七號

明治十五年一月廿日

市中各署

非常並出火有之候トキハ其事故又ハ火災ノ町名等警察署ニ於テ記載シ而シテ各派出所へ配付シ他ノ見易キ場所へ掲ケ候様可致此段及通達候也

第十節

出火場心得付井戸所有者戸外ニ

井數揭示

●丙第二百四十號

明治十五年十二月一日

大阪四區

昨十四年(十二月)甲第二百五十七號布達ヲ取消シ更ニ出火場心得左ノ通相定候條此

旨告示候事

第一條 凡ソ出火場ヨリ方二丁ヲ以テ非常遮路線トナシ左ニ掲クルモノ、外線内ニ入ルヲ許サス

第一 線内ニ家屋ヲ有シ或ハ居住スルモノ

第二 線内ニ親戚故舊等アリテ救援ヲ爲サントスルモノ

第三 線内ノ官衙ニ奉職シ公ニ公務ヲ帶行スルモノ

第四 線内ニアル社寺(公私立)學校病院諸會社ニ勤務スルモノ

第二條 消防組ノ進路及諸器械等運搬ノ節ハ行路ヲ啓發シ支障ナス可カラス

第三條 出火場ヨリ方五丁以内ノ居室ニシテ平常用水桶ノ設ケナキモノハ可成臨時

戸外ニ水ヲ盛リタル桶樽等差出シ自他ノ用便ニ供スヘシ

第四條 出火地近傍居室内ノ井泉等消防ノ爲需用スルハ之レヲ拒絕ス可カラス

第五條 道路最モ狹隘ニシテ消火夫ノ進退及諸器械ノ運轉等自在ナルヲ得サル場合

ハ臨時線内ニ入ルヲ制止スルヲアル可シ

●天第百三十二號

明治十三年八月廿一日

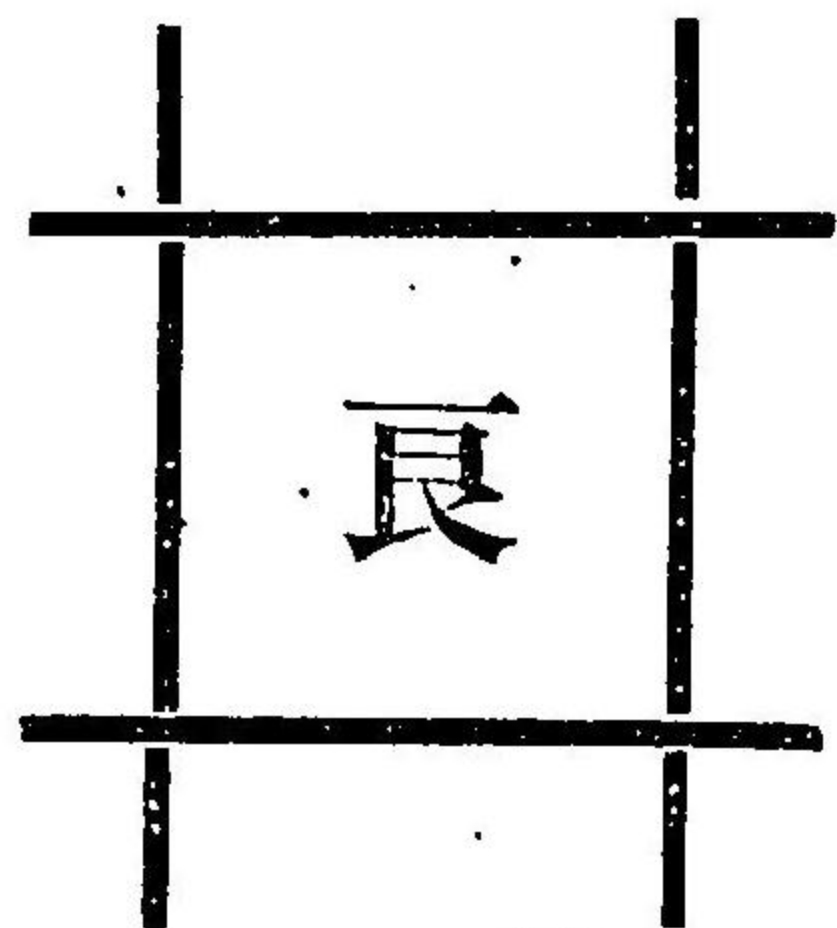
火災消防ノ際水利ノ缺ヘカササルハ人々熟知ノ筈ニ候處中ニハ近傍出火ノ節或ハ表戸ヲ嚴鎖シ或ハ釣瓶ヲ解放シ一巳ノ便利ノミヲ謀ル者往々有之右ハ情實不得止ニ出テ候儀ニハ可有之候得共爲メニ消防ノ便ヲ失ヒ終ニ火勢蔓延候儀モ不少候ニ付向後

井戸所有ノ者ハ左ノ雛形ニ準シ戶外ニ井數ヲ揭示シ置自然近傍出火ノ節汲取方不便無之様注意可致此旨四區并接近郡村へ布達候事

雛形

何ヶ所

飲水試験濟ノ掲
出アルモノハ其
紙中ニ圖ノ如ク
記入ス



良ノ字ハ朱書

第十一節 非常用提灯及旗

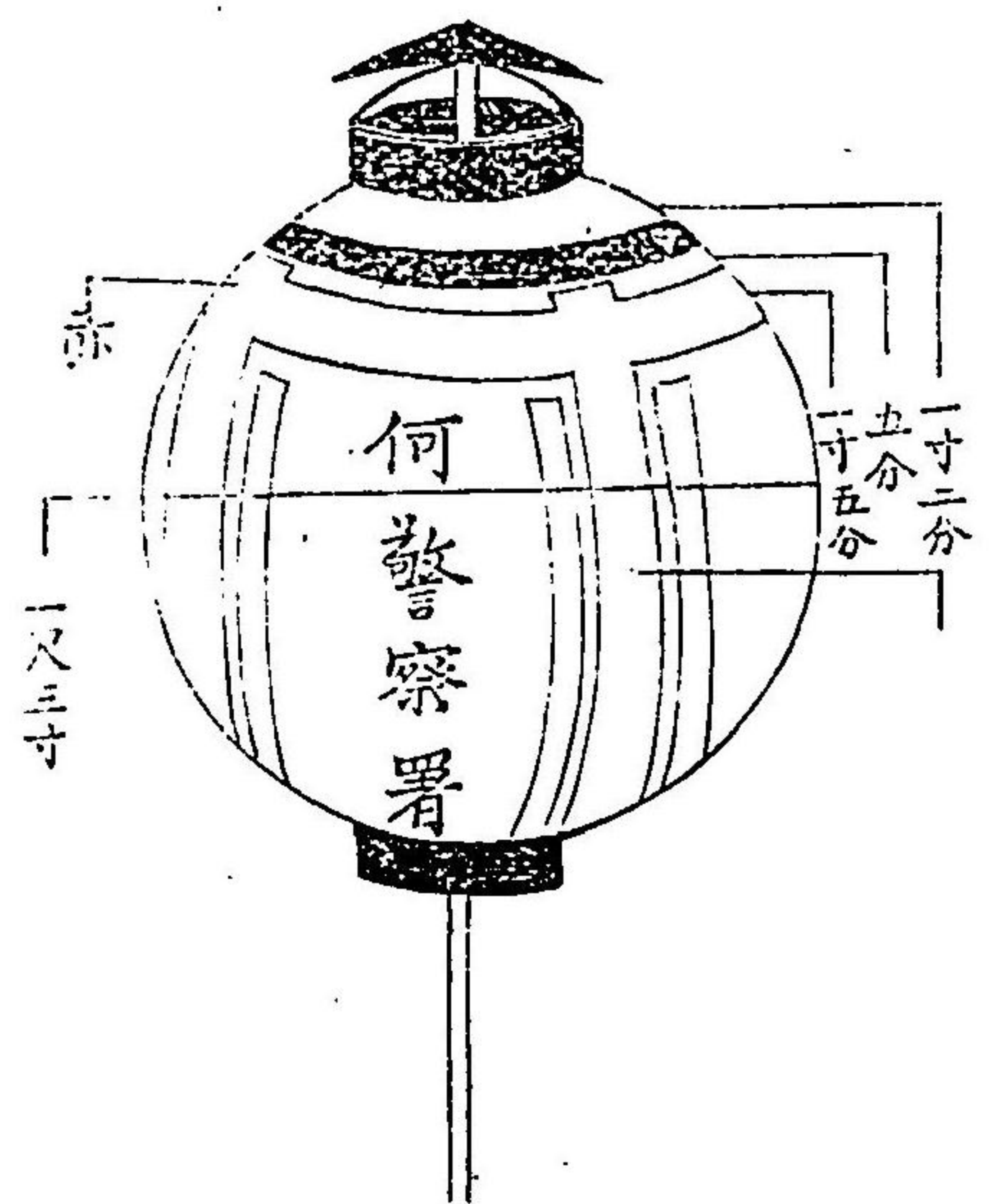
●廳達第四十六號 明治廿二年十月一日
非常用高張提燈左ノ雛形ノ通相定ム

警察本部

警察本部用



警察署用

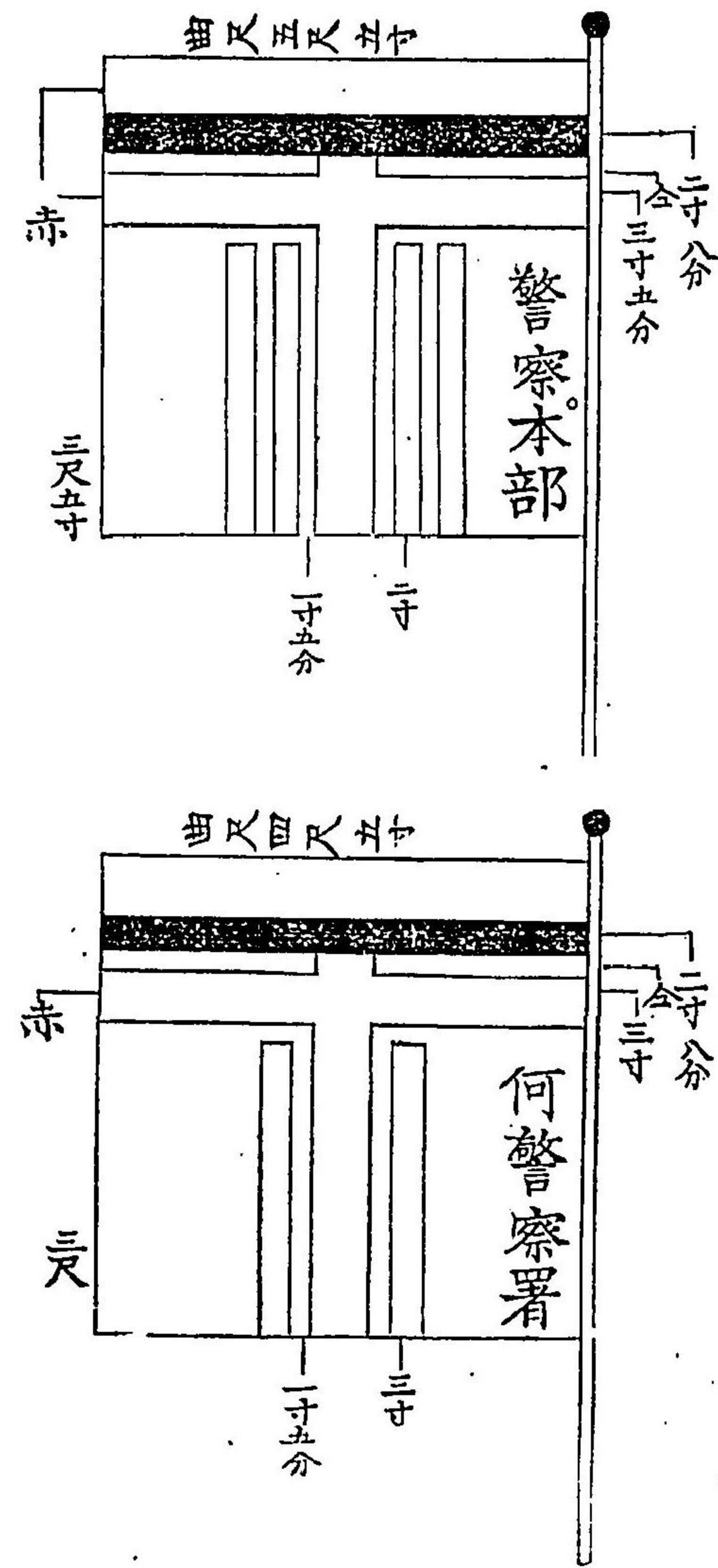


●廳達第七十六號 明治廿三年十月二日

警察本部及市部警察署非常用旗左ノ雛形ノ通相定ム

警察本部

非常用提灯及旗



第十二節 郡部消防規則編制心得及出火報告

●丙第七號 明治十六年一月廿二日

攝津國四區ヲ除ク

明治十一年舊堺縣甲第二十五號布達ヲ取消更ニ出火消防規則編制心得別紙之通相定候條消防組ノ備ヘ有之町村ハ右心得ニ準據シ規則ヲ設ケ所轄警察署ヲ經由警察本署ノ認可ヲ受ク可シ此旨布達候事

但消防組ノ備ヘ無之町村ハ各自相救援消防候儀ト心得ヘシ

消防規則編制心得

第一章 總則

第一條 凡ソ火災消防ノ事ニ付テハ所轄警察官吏ノ指揮ヲ受ク可キ事

第二條 各町村若クハ聯合戶長役場又ハ學校等ニ半鐘或ハ太鼓ヲ適宜備ヘ置キ出火ノ節ハ其町村ヘ警報シ各町村ハ順次之ヲ應報ス可シ

第二章 編制

第三條 町村ノ協議ニテ消防組唧筒組ヲ編制セントスル者ハ左ノ方法ニ準據ス可シ
一 消防一組ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ組織ス

| | | | | | | |
|-------------------|-----|---|----|---|---|---|
| 小頭 | 一 | 人 | 同 | 副 | 二 | 人 |
| 纏 | 二 | 人 | 楷梯 | 夫 | 二 | 人 |
| 斧 | 四 | 人 | 鋸 | 夫 | 二 | 人 |
| 鳶 | 二十五 | 人 | 櫻 | 夫 | 二 | 人 |
| 計 | 四十 | 人 | | | | |
| 唧筒一組ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ組織ス | | | 同 | 副 | 一 | 人 |
| 小頭 | 一 | 人 | | | | |

唧筒夫 三 人 助手 十 人
計 十五人

三 消防器械ハ左ノ如シ

但本項ノ器械ハ町村ノ適宜ニ増減スルモノトス

- 一 繩 一 振 一 長楷梯 一 脚
- 一 鎖鈎付麻綱 一 本 一 棧 二 挺
- 一 大鋸 二 挺 一 斧 四 挺
- 一 鳶 十五 挺
- 一 唧筒 一 挺 但唧筒ナキ町村ハ龍吐水二挺トス
- 一 水汲桶 十 個 但張旅ヲ以テ最良トス

第三章 消防心得

第四條 凡ソ出火ノ報鐘信號ヲ聞キタルハ速カニ消防ニ盡力スヘシ

第五條 出火場へ至ルノ途中ハ各組整列進行シ往來ノ妨ケナラサル様注意シ歸途モ亦同様タルヘシ

第六條 總テ消防ノ爲メ家屋土藏等ヲ破壊引崩スル等出張警察官ノ指揮ヲ待ツ可シ決シテ自儘ノ處置アルヘカラス

第七條 出火場へ出張中他ニ發火スルハ人員ヲ分テ消防スルコトアル可シ

但本條ノ場合ト雖トモ出張警察官ノ指揮アルニアラサレハ自儘ニ持場ヲ離ルヘカラス

第八條 被服徽章ノ設ケアル町村ハ出火ノ節必ス其被服ヲ着用ス可シ

第九條 出火ノ節近傍ノ人家へ立入り飲食等ヲ貪リ候儀一切不相成候事(廿一年府令第六十三號ヲ以テ次條ヲ删除ス)

丙第八號 明治十六年一月二十二日 攝津國四區ヲ除ク

出火消防ノ爲メ被服徽章等ノ設有之町村ハ所轄警察署ヲ經由シ警察本署へ届ケ出ツ可シ此旨告示候事

但將來徽章ヲ設ケントスル町村ハ所轄警察署ヲ經由シ警察本署ノ認可ヲ受ク可キ義ト心得ヘシ

丙第十八號 明治十六年二月七日 戸長 役 場 攝津國四區ヲ除ク

出火消防上指揮之儀ハ警察官ノ當務ニ候處遠隔等ノ場所ニシテ該官出張セサル節ニ限リ其町村戸長ニ於テ指揮可致此旨相達候事

但警察官出張候時ハ指揮スル職務ヲ可讓儀ト心得ヘシ

○本達乙第五十三號 明治十九年十一月十日 郡部警察署

自今出火アリタルハ左ノ科目ヲ調査シ略圖ヲ添ヘ其都度届出ヘシ

- 一 火元ノ住所氏名
- 一 出火鎮火ノ月日
- 一 出火ノ原由
- 一 焼失半焼又ハ引崩ノ軒數(土藏別家等ハ棟數)及坪數
- 一 橋梁(間數幅數)
- 一 船舶(日本形ト西洋形トヲ區別シ及其噸數及乘組人員積荷ノ種類員數ノ概略)
- 一 山林田野(反別立木下草穀物等ノ概略)
- 一 死傷(官吏消防夫一般人民ヲ別チ傷ハ其輕重ヲ詳ニス)
- 一 焼死ノ牛馬羊豚

第十三節 消防組金品給與規則

○大阪市告示第十三號 明治廿二年十月一日

消防金品給與規則 (廿三年大阪告示第十七號及第四十七號
廿四年大阪告示第六號ヲ以テ本則中改正)

第一條 機關手機關手補及水火夫消防醫月給支給方ハ市ノ有給吏員給料支給規則ニ準據ス

但組頭以下ノ月給ハ毎月廿六日其月分ヲ給ス但雇入解雇若クハ死亡ノ當月ハ十五日以前十六日以後ヲ區分シ支給ス

第二條 機關手以下職務上死傷シタルモノハ左ノ例ニ依リ手當ヲ給ス但傷痕引日手當ハ治療中營業シ能ハサル者ニ限り之ヲ給ス

癱疾扶助料ヲ給シタルトキハ療治料藥價綑帶等諸費及傷痕引日手當ハ其前日限り之ヲ給セス

- 一 吊祭料 金貳拾圓
- 一 遺族扶助料 金六拾圓
- 一 癱疾扶助料 金貳拾圓以上五拾圓以下
- 一 療治料 實費
- 一 藥品綑帶等諸費 實費
- 一 傷痕引日手當 一日金貳拾錢
- 一 負傷者歩行シ難ク現場ヨリ病院其他へ至ル車馬賃又ハ雇夫賃 實費
- 一 重傷ヲ負ヒ病院へ入院中食料 一日金拾七錢

第三條 組頭以下消防ニ從事セシトキハ左ノ手當ヲ給ス但消防ニ從事セスト雖モ出火ノ爲メニ警察署又ハ現場ニ出張セシモノハ其半額ヲ給ス

- 一 組頭 金貳拾錢
- 一 一小頭 金拾五錢
- 一 一 等消防手 金拾錢

一二等消防手 金八錢

第四條 機關手以下消防ニ從事スル者ノ賄料ハ出火ヨリ鎮火迄ノ時間一時間以上三時間以内ハ金三錢五厘其以上六時間以内ハ金七錢ヲ給ス以上三時間迄ヲ加フル毎二三錢五厘ヲ追給ス但シ時宜ニヨリ現品ヲ以テ給スルコトアルヘシ
 全上ノ者(組頭小頭及ヒ一
手二等消防手ヲ除ク)宿直ハ一食貳錢五厘兩度分ノ辨當料ヲ給ス

第五條 機關手以下エハ左ニ掲クル服具ヲ貸與ス其使用并ニ保存期限左ノ如シ但草鞋ハ一足金壹錢ノ割合ヲ以テ代料ヲ給ス

前項ノ期限八月ヲ以テ計算シ貸與ノ月ハ其初日ト末日トニ拘ハラズ一ヶ月ニ算入シ滿期ノ月ハ末日ニ至ラサレハ一ヶ月ニ算入セス

- 一 機關手以下被服使用并ニ保存期限各一ケ年
- 一 組頭以下手袋 使用期限一ケ年
- 一 機關手機關手補水火夫帽 使用并ニ保存期限各一ケ年
- 一 組頭以下帽 全 各三ケ年
- 一 機關手以下帽章 全 各三ケ年
- 一 組頭以下草鞋 出火壹度 壹 足
- 一 組頭以下帽綴 使用并保存期限 各三ケ年
- 一 常備消防手靴 使用期限 一ケ年

第六條 職務上服具ヲ毀損シ又ハ亡失シタル者ハ之ヲ修補シ若クハ新ニ之ヲ貸與ス
 第七條 服具ノ保存期限ヲ經過シタルモノハ帽章ヲ除ク外之ヲ給ス但勤續二ケ年ニ滿タサルモノハ之ヲ返納セシム

第八條 自己ノ過失ニ因リ服具ヲ亡失シ又ハ毀損シタルモノハ左ノ區別ニ依リ賠償セシメ修補シ得ヘキモノハ其修補料ヲ賠償セシム

- 但保存期限中ニ係ルモノハ一ヶ月分ヲ賠償セシム
- 一 機關手被服上衣 (使用殘期限間一ヶ月) 金貳拾五錢
- 一 全 袴 金拾六錢五厘
- 一 機關手補以下被服上衣 全 金拾 錢
- 一 全 袴 金六錢五厘
- 一 組頭以下手袋 全 金貳錢五厘
- 一 機關手機關手補水火夫帽 全 金六 錢
- 一 組頭以下帽 全 金貳 錢
- 一 機關手以下帽章 金五 厘
- 一 組頭以下帽綴 (使用殘期限間一ヶ月) 金壹 錢
- 一 常備消防手靴 (使用殘期限間一ヶ月) 金八 錢

第九條 組頭常備消防手ヲ除ク以下夜詰ヲナシタル片ハ手當トシテ一人一夜金拾錢ヲ給ス

第十條 組頭常備消防手ヲ除ク以下例月又ハ出火後唧筒掃除ニ從事セシキハ手當トシテ一人

一日金貳拾錢ヲ給ス

第十一條 組頭常備消防手ヲ除ク以下消防演習ニ從事シタル當日ハ賄料トシテ金三錢五厘ヲ給ス

第十二條 機關手以下歳首出初式執行ノ時ハ酒肴料トシテ一人金拾錢ヲ給ス

但時宜ニヨリ現品ヲ以テ給スルコトアルヘシ

第十四節 消防組金品給與取扱順序

○本達第五十四號 明治廿二年十一月五日

市部警察署

大阪市消防組金品給與取扱順序左ノ通相定ム

消防組金品給與取扱順序

第一條 大阪市消防組ニ關スル費目ヲ警備費ト稱ス

第二條 消防組員ニ交付スル諸費ニシテ左ノ第一項乃至第四項ハ其都度第五項ハ一

ヶ月分取纏メ請求書ヲ徴シ精密調査ヲ遂ケ送致書ヲ添付シ主計課ヘ送付スヘシ

一 組頭以下出火手當 二 機關手以下賄費

三 組頭以下艸鞋料 四 全唧筒掃除手當

五 組頭以下夜詰手當

第三條 機關手以下職務上死傷シ規則第二條第一項乃至第三項ニ該當スルモノハ各

署ニ於テ消防醫ノ診斷書又ハ傷痕策定書ヲ徴シ本部長ヘ具申シ其第四項第五項ハ消防醫ヨリ第六項ニ該當スルモノハ本順序第六條ノ施療券ヲ添ヘタル請求書ヲ徴シ一ヶ月分取纏メ前條ノ手續ニ據ルヘシ

但診斷及策定書ハ巡查看守給助例ノ書式ニ準スヘシ

第四條 機關手以下給料賞與及前二條ノ金額ハ主計課ニ於テ支出ノ手續ヲナスヘシ

給料ハ十六年本甲第二十五號ニヨリ渡原簿ヲ設クヘシ

第五條 領受證書ハ會計課ヨリ送金ヲ得タル日ヨリ五日以内ニ記簿ヲ了シ送致書添付主計課ヘ送付スヘシ各署ニ於テハ臨時寄託ヘ主計課ニ於テハ警備費内譯簿ヲ設

ケ登記スヘシ

第六條 機關手以下負傷者アルトキハ別紙書式施療券ヲ付與シ消防醫ノ證印ヲ受ケ

シムヘシ

第七條 物品ノ購求又ハ修繕ハ主計課ニ於テ之ヲ取扱フモノトス各署ニ於テハ之ヲ

要スル都度其事由ヲ記シ主計課ヘ請求スヘシ

第八條 被服具ハ渾テ主計課ニ於テ調製シ之ヲ交付スヘシ

第九條 被服具ヲ毀損又ハ亡失シタルモノ其交換若クハ修補ヲ要スル場合ニ於テハ

本人ノ手續書ヲ徴シ審査ノ上意見ヲ付シ申出ツヘシ

賠償金ハ主計課ニ於テ收納ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品ノ出納ハ左ノ帳簿ヲ設ケ常ニ其出納ノ事跡及現在高チ明敷ニスヘシ
消防組財産原簿 全備品(消耗品)受拂簿

全需用品購求稟議簿

全被服具受拂簿

第十一條 帳簿證書等ハ別紙雛形ニ依リ調製スヘシ

但傳票證書其他書式ヲ示サ、ルモノ各署ハ警察署會計定則ニ據リ取扱フヘシ

送致書

一出火手當請求書(領受証書)

何 葉

但此金何程

一賄費請求書(領受証書)

何 葉

但此金何程

一死傷手當請求書(領受証書)

何 葉

但此金何程

一何、、、、

何

但、、、、

右送致候也

年月日

何 警察署 印

主 計 課 宛

給料仕譯書(賞與其他請求書ヲ徴セザルモノ做之)

一金何程 印

何 警察署 消防組 何月分月給

内 譯

金何程

機 關 手 氏 名

金何程

組 頭 氏 名

金何程

小 頭 氏 名

但何々ニ付何、(増給減給等給額ニ異動アルモノヲ記スヘシ)

金何程 一等消防手 氏 名

右之通候也

年月日

會 計 主 任 官 氏 名 印

証

一金何程 印

但明治何年何月分月給

(異動アルモノハ其事由ヲ詳記ス)

右正ニ領受候也

年月日

何 警察署 消防組 職 氏 名 印

備考

一 數人連署スルモ妨ケナシト雖モ此場合ハ職名毎ニ各通區別スヘシ

⑩ 請求書ハ所屬署長捺印

記 (領受書ハ証) (草鞋料及賄費做之)

一金何程

何警察署消防組

唧筒掃除人足賃

但明治何年何月何日何處出火後唧筒掃除賃

内譯

金何程⑩

組頭

氏

名 ⑩

金何程⑩

小頭

氏

名 ⑩

金何程⑩

一等消防手

氏

名 ⑩

金何程⑩

二等消防手

氏

名 ⑩

右御下渡相成度(正ニ領受)候也

年月日

備考

一 請求書ハ組頭總代トナリ請求スルコトヲ得此ノ場合ハ右云々與書ノ次ハ其事由及職氏名ヲ記シ捺印スヘシ以下連名ヲ以テ請求スル場合之ニ準スルヲ得

一 賄費ハ出火時間ノ長短ニヨリ食數ノ差アリ故ニ但書ハ其時間食數等詳記スヘシ
 ⑩ 請求書ハ所屬署長檢印

記 (領收書ハ証)

一金何程 ⑩ 組頭之印 何警察署消防組 夜詰手當

此譯

| 月 | 日 | 數 | 一度ノ給額 | 金 | 額 | 職 | 氏 | 名 |
|-------------|---|---|-------|---|---|---|-------|------|
| 何月何日ヨリ何日迄ノ内 | 何 | 日 | 何 | 程 | 何 | 程 | 小頭 | 何某 ⑩ |
| 同 | 何 | 日 | 何 | 程 | 何 | 程 | 一等消防手 | 何某 ⑩ |
| 同 | 何 | 日 | 何 | 程 | 何 | 程 | 二等消防手 | 何某 ⑩ |

右御下渡相成度(正ニ領受)候也

年月日

証

一金何程⑩

但何々ニ付賞與何月何日御達ノ分

右正ニ領收候也

年月日

何警察署消防組

職氏名 ㊟

備考

一 數人連署スルモ妨ケナシト雖モ此ノ場合ハ職名毎ニ各通區別スヘシ

証

一金何程 ㊟

但何年何月何日何處出火ノ節負傷癱疾扶助料何月何日御達ノ分

右正ニ領受候也

元何警察署消防組

年月日

職氏名 ㊟

備考

一 吊祭并ニ遺族扶助料等ハ本書式ニ準シ遺族若クハ親族領收人署名捺印スヘシ

㊟請求書ハ所屬署長捺印

記 (領收書ハ証)

一金何程 ㊟

何警察署消防組

引日手當

| 摘 要 | 日 數 | 一日ノ給額 | 金 額 | 職 氏 名 | 摘 要 | |
|-------------------------------|-----|-------|-------|-----------------|---------------|---------------|
| | | | | | 何 日 | 何 程 |
| 何月何日午前(午後)何時何處ヨリ出火ノ節負傷何日ヨリ何日迄 | 何 日 | 何 程 | 何 程 ㊟ | 小 頭 何 某 ㊟ | 全 | 全 |
| 右御下渡相成度(正ニ領受)候也 | 何 日 | 何 程 | 何 程 ㊟ | 一 等 消 防 手 何 某 ㊟ | 全 | 全 |
| 年 月 日 | 何 日 | 何 程 | 何 程 ㊟ | 二 等 消 防 手 何 某 ㊟ | 全 | 全 |
| 一 請求書ハ醫員診察書ヲ添付 | | | | | 全 | 全 |
| 一 金何程 ㊟ | | | | | 全 | 全 |
| 記 (領受書ハ証) (藥價紉帶費倣之) | | | | | 全 | 全 |
| 何警察署消防組 療 治 料 | | | | | 全 | 全 |
| 此 譯 | | | | | 全 | 全 |
| ㊟請求書ハ所屬署長捺印 | | | | | 全 | 全 |
| 何年何月何日何處出火ノ節負傷自何月何日至何月何日 | 何 度 | 診 察 料 | 何 程 | 何 程 | 職 氏 名 | 職 氏 名 |
| | 何 度 | 何 程 | 何 程 | 何 程 | 一 等 消 防 手 何 某 | 一 等 消 防 手 何 某 |

凡例

- 一本簿ハ消防組ニ關スル財産原簿ニシテ殘ノ欄ニアルモノヲ所用現在品トス
- 一備品ノ交付ヲ受ケタルトキハ摘要ニ理由ヲ詳記シ受ニ立ツヘシ
- 一備品ノ破損所用ニ耐ヘサルモノ又ハ全ク不用ニ屬シタルモノハ主計課ヘ返付シ理由ヲ摘要ニ詳記シ拂ニ立ツヘシ

明治何年何月

(消防組)

消耗品請拂簿

(用紙美濃紙罫)

何課署

石炭

品目毎ニ口別スヘシ

| 年月日 | 摘要 | 受高 | 請求高 | 殘高 | 領受証印 | 請求人氏名印 |
|-------------------|-------------|-------------------|------|-------------------|------|-------------|
| 何年(印)何月日 「署長印」 | 主計課ヨリ 受入 | 何(印)程(印) 「主任印」 | 取扱者印 | 何(印)程(印) 「主任印」 | 取扱者印 | 請求人氏名印 |
| 何年(印)何月日 | | 何(印)程(印) | | 何(印)程(印) | 機手印 | 機手 何某(印) |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

凡例

一本簿ハ需用者ノ請求簿ヲ兼用スル簡便法トナシタルモノナレハ先ツ需用者其員數ヲ請求高欄内ニ記シ氏名捺印署長ノ認印ヲ受クルモノトス

一取扱者ハ前項ノ手續了シタル后現品交付計算記簿スヘシ
一摘要記載方ハ需用者ハ其所用ヲ明記スヘシ

明治何年何月

(消防組)

被服具受渡簿

(用紙美濃野紙)

何課署

被服

名稱ニ依テ口別スヘシ

| | | | | |
|-------------|----------------|-------------|---------------|-------------|
| 年月日 | 摘要 | 受渡 | 領受人証印 | 残高 |
| 何年月日 〔印〕 | 主計課ヨリ受人 〔印〕 | 何組 〔主任印〕 | 〔印〕 | 何組 〔主任印〕 |
| 何年月日 〔印〕 | | 一組 〔印〕 | 機關手何某 受取人印 | 何組 〔主任印〕 |
| 全日 〔印〕 | | 一組 〔印〕 | 組頭何某 〔印〕 | 何組 〔印〕 |
| 全日 〔印〕 | | 、、 〔印〕 | 、、 〔印〕 | 何組 〔印〕 |
| 何年月日 〔印〕 | 組頭何某解職ニ 付返納 | 何組 〔印〕 | | 何組 〔印〕 |

凡 例

一本簿ハ本人ヨリ領受証書ヲ徴セス証印ナサシムルモノナレハ別ニ領受証書ヲ徴スルトキハ渡高合記ノ上其理由記入スルモ妨ケナシ

第十五節 警 火 番

●甲第九十七號 明治十四年九月廿四日

火災豫防ノ爲メ一町村或ハ數町村聯合警火番ト唱フル者ヲ置カントスルトキハ別紙書式ニ照準シ届書ヲ所轄警察署又ハ分署ヘ可差出此旨相達候事

警火番届書

何(區郡)何(町村)

右町(村)聯合協議ノ上何年何月何日ヨリ何年何月何日迄火災豫防ノ旨趣ヲ以テ警火番何人ヲ置キ連夜聯合町村内ヲ巡視爲致度候尤モ鳴物或ハ高聲ヲ發シ他人ノ妨害ト相成候儀ハ決シテ爲致間敷候此段御届申上候也

明治何年何月何日

右(町村)總代人

何 誰

右之通届出候ニ付奥印仕候也

右(町村)戶長

何 誰

明治何年何月何日

大阪府知事某殿

●丙第二十九號 明治十六年六月廿日

大阪四區並接續町村

從來警火番ノ名義ヲ以テ一町村若クハ數町村聯合シ夜警ヲ爲サシメ候者有之候處來ル七月一日ヨリ禁止候條此旨布達候事

●丙第二百二十七號 明治十八年七月十五日

堺 區 役 所

堺區各町ニ於テ從來警火番ノ名義ヲ以テ夜番ヲ爲サシメ來候趣ノ處右ハ詮議ノ筋有之來ル八月一日以後禁止候條區内ヘ可相達此旨相達候事

第五章 人 命 救 護

第一節 瘋癲人取締規則

●甲第二十二號 明治十九年二月十七日

瘋癲人取締規則左ノ通相定メ本月廿五日ヨリ施行シ明治十六年甲第六十二號布達及本則ニ牴觸スル從前ノ指令等ハ同日限り廢止ス

但從前願濟鎖鋼中ノ者ト雖モ來三月十日限り本則ニ依リ更ニ願出允許ヲ受クヘシ
瘋癲人取締規則

第一條 凡ソ瘋癲人ニシテ狂暴ノ所爲アル歟又ハ他ニ害ヲ被ラシムルノ恐れアルヲ以テ鎖鋼セントスル者ハ隣佑五名以上ノ保証狀及醫師ノ診斷書ヲ副ヘ近親ノ者二名以上連署シ所轄戸長ノ與印ヲ受ケ且鎖鋼セントスル場所ノ圖面ヲ副ヘ出願允許ヲ受クヘシ

第二條 鎖鋼室ハ衛生上障害ナキ場所ヲ撰定シ且堅牢ニ設置スヘシ

第三條 瘋癲人ヲ私立病院ヘ入レ治療セシメントスル者ハ其院名ヲ記シタル書面ニ醫師ノ診斷書ヲ副ヘ届出ヘシ醫療ニ依ラスシテ救治ノ法ヲ施サントスル者ハ場所及方法等ヲ詳悉シ出願允許ヲ受ケ尙現場所轄ノ警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第四條 瘋癲症ヲ治療スル私立病院ニハ名簿ヲ備ヘ患者ノ住所氏名ヲ登記シ且其出入ヲ詳ニシ警察官吏ノ點檢ニ供スヘシ

第五條 鎖鋼室ヘハ總テ危害ノ虞アル物件ヲ差入ル、ヲ得ス若シ他ノ病氣等ニ依リ不得止差入ル、トキハ必ス看護人ヲ付スヘシ

第六條 瘋癲人ハ假令狂暴ニ至ラサルモ猥リニ放置スヘカラス若シ保養等ノ爲メ外

出セシメントスルトキハ必ス看護人ヲ付スヘシ

第七條 天變地異其他危劇ノ災害アルトキハ速ニ危難ヲ避ケシムヘシ此場合ニ於テハ必ス看護人ヲ付スヘシ

第八條 鎖鋼室ハ時々掃除シ勉メテ清潔ヲ旨トスヘシ

第九條 入院若クハ鎖鋼中ハ臨時警察官吏ニ於テ室内ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十條 鎖鋼中ト雖モ必ス醫師ノ治療ヲ受ケ決シテ苛酷ノ取扱ヲ爲ス可カラス

但痼疾ニシテ治癒ノ見込ミナク醫療ヲ止メントスルトキハ醫師ノ鑑定書ヲ副ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第十一條 事故アリテ他室(病院ヲ除ク)ヘ移轉セシメントスルトキハ其旨届出認可ヲ受クヘシ

第十二條 入院若クハ鎖鋼中死亡シタルトキハ醫師ノ死亡届ヲ副ヘ速ニ届出ヘシ

第十三條 解鎖セントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ副ヘ出願允許ヲ受クヘシ

第十四條 警察官吏ハ鎖鋼ノ瘋癲人全治シタル歟又ハ瘋癲人ニアラスト認定スルトキハ相當醫師ニ鑑定セシメタル上解鎖ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 本則第二條第六條第七條第九條第十條三條第十四條第十六條ヲ除クニ違背スル者ハ違弊罪ノ刑ニ處セラ

第十六條 本則ノ願届ハ管轄警察署又ハ分署ヘ差出スヘシ(廿四年府令第六十五號ヲ以テ本條中四字追加)

第二節 瘋癲人取締規則取扱手續

○本甲第二十四號 明治十九年二月十七日 警察署

瘋癲人取締規則取扱手續別紙ノ通相定メ候條此段相違候也

但十六年本甲第五十二號通達及此手續ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ之ヲ廢止ス

瘋癲人取締規則取扱手續

第一條 瘋癲人ヲ鎖鋼センコトヲ願出タルトキハ願意ヲ審按シ若シ疑ハシキ廉アルトキハ事實ヲ探偵シ且其鎖鋼スヘキ場所ヲ檢査シ許否ス可シ其他室ヘ移轉セシメ
ンコトヲ願出タルトキ亦本條ニ準ス

第二條 前條ニ依リ許可シタル鎖鋼室落成ノ上ハ之ヲ檢査シ若シ不堅牢ノケ所アル
乎又ハ衛生上害アリト認ムルトキハ其部分ヲ改造若クハ修築セシムヘシ

第三條 醫療ニ依ラスシテ救治ノ法ヲ施サンコトヲ願出タルトキハ其場所及方法等
ヲ審按シ許可スヘシ

但神佛ノ加護ニ托シ加持祈禱若クハ符呪等ヲ爲シ又ハ其方法危險或ハ不正ニ涉
ルモノハ許可スヘカラス

第四條 前條ニ依リ許可シタルトキハ願人并ニ患者ノ住所氏名且場所及救治ノ方法
等ヲ摘記シ現場所轄警察署又ハ分署ヘ通知ス可シ

第五條 第一條第三條ニ依リ許可シタル瘋癲人及私立病院ヘ入院シタル瘋癲人ハ適
宜名簿ヲ製シ之ヲ登記シ且扣除ヲ嚴ニシ視察ノ用ニ供ス可シ

第六條 自宅鎖鋼ニ係ル瘋癲人ハ毎月三回以上其私立病院ニアルモノハ毎月一回警
部同補又ハ專務巡查ヲシテ視察セシムヘシ(專務巡查廿年本達乙第四十六號ヲ以テ廢止ス)

但專務巡查ノ設ケナキ署ニアリテハ通常巡查ヲシテ視察セシムルヲ得(全上)

第七條 前條ノ視察員ハ室内及取扱上萬般ニ注意シ若シ不都合ノ廉アルヲ發見セシ
トキハ懇篤説諭ヲ加ヘ之ヲ止メシム可シ其再度規則ニ違背スル者アルトキハ署長
ヘ申告スヘシ

但私立病院ニ於テ本條ノ不都合アルモ説諭スルノ限ニアラス其事實ヲ詳記シ署
長ヘ申告スヘシ

第八條 署長ニ於テ前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ審按シ時宜ニ依リ本人ヲ
召喚シ説諭ヲ加ヘ又ハ相當處分スヘシ

第九條 醫療ヲ止メンコトヲ届出タルトキハ醫師ノ鑑定書ヲ審按シ若シ疑ハシキ廉
アルトキハ他ノ醫師ヲシテ尙ホ鑑定セシメ可否スヘシ

第十條 鎖鋼ノ瘋癲人死亡シタル旨届出タルトキ警察署ハ内勤警部同補分署ハ分署
長若クハ代理者速ニ出張シ檢視ヲ爲スヘシ然シテ通常病死ハ調書ヲ作ルニ及ハス
ト雖モ其疑ハシキモノハ之ヲ作ルヘシ

第十一條 鎖鑰ノ瘋癲人解鎖セシコトヲ願出タルトキハ醫師ノ診斷書ヲ審按シ其全治シタルモノニ限り許可スヘシ

第三節 死傷人檢視心得

○本甲第五十四號 明治十八年五月廿二日

警察署

死傷人檢視心得別紙之通相定候條此段及通達候也

但此心得ニ關スル從前ノ通達及指令ハ本日限り廢止ス

死傷人檢視心得

第一條 此規則ハ溢死溺死漂着等單純ナル檢視ヲ爲ス場合ニ適用スルモノトス故ニ本條ノ指令ナリト思料スルハ以下各條ニ依リ處分スヘシ

第二條 死傷者アルハ警部直ニ巡查ヲ引奉現場ニ出張シ醫員并證人ヲ立會ハセ檢視スヘシ(廿一年本達乙第五十六號ヲ以テ出張シノ下(所轄戸長)ノ四字ヲ削除ス)

第三條 巡查ヲ必要トセサル場合ハ之ヲ引奉セサルモ妨ナシ又腐爛ノ死屍ニ係ルハ醫員ノ立會ヲ要セサルヘシ

第四條 届出人アルハ死體及其現場ノ摸樣等變更セサル様其本人へ口達スルモノトス又時宜ニ依リ直ニ巡查ヲ派遣シ取締ヲ爲サシム可シ

第五條 檢視ハ其死傷者ヲ先ツ見認メタル人ニ就テ其景況ヲ尋聽シ而シテ之ヲ檢視スルヲ要ス

スルヲ要ス

第六條 檢視ハ頭髮ノ間ヨリ手足ノ末ニ至ル迄全体漏スヲナク之ヲ検査シ逐一調書ニ記入スヘキモノトス若シ疑ハシキ廉アラハ醫員ニ質問スヘシ

第七條 檢視ハ總テ檢視官ノ見込ニ任スヘシト雖モ就中左ノ諸項ニ注意スヘシ

- 一 死傷ノ場所及器具
- 二 身體疵所ノ摸樣及變色
- 三 毛髮ノ結束紛亂ノ摸樣
- 四 眼耳鼻ノ摸樣及開閉
- 五 開閉又ハ合掌ノ摸樣
- 六 齒舌咽喉ノ摸樣及嘔物ノ有無
- 七 胸膈部ノ摸樣
- 八 陰部及肛門ノ摸樣
- 九 靜姿及指ノ屈伸
- 十 疵傷ノ縱横深淺ノ寸尺

第八條 遺書等アルトキハ之ヲ領收シ其信偽ヲ審判スルハ勿論ナリト雖モ若シ親族等ヨリ下附ヲ請フトキハ其著テシテ直ニ謄寫セシメ而シテ本書ヲ下附スヘシ

但本人文字ヲ知ラサル歟又ハ其他ノ事故ニ依リ謄寫スルコト能ハサルトキハ他ノ著テシテ謄寫セシメ本人ト共ニ署名捺印セシムルモノトス

第九條 身体中疵傷アルトキハ體圖ニ照シ記入スヘシ

第十條 死傷者ハ醫員ヲシテ鑑定セシメ其鑑定書ヲ徴スヘシ

第十一條 證人ハ一人毎ニ逐一審問シ調書ヲ作ル歟又ハ答書ヲ徴スヘシ但答書ハ檢視官ノ官氏名ヲ宛記載セシムルモノトス

第十二條 死者ハ人相書ヲ作り着用衣類携帶物品ハ其紙尾ニ記入スヘシ
第十三條 檢視ニ關スル書類ハ其綴目并ニ字句ノ改竄塗抹及記入ノ箇所ニハ必ス本人ヲシテ捺印セシムヘシ

第十四條 檢視終リタル後死傷者ハ其家人親族等ヘ引渡スヘシ其住所遠隔又ハ不分明若クハ引取人ナキトキハ其地戸長ノ處分ニ任スヘシ
但死傷者ヲ引渡シタルトキハ總テ受書ヲ徵スヘシ

第十五條 戸長ヨリ住所不分明ナル死屍檢視調書ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第十六條 總テ徵收シタル書類ハ檢視調書ニ添付スヘシ

檢視調書

明治何年何月何日午(前後)何時何分何(郡區)何(町村)何番地(士族平民)何某ヨリ何(郡區)何(町村)何所ニ溺死(縊死或ハ行倒)人有之旨届出候ニ付(又ハ巡查何某ヨリ何(郡區)何(町村)何所ニ縊死溺死或ハ行倒人有之旨報告ヲ受ケ)迅速巡查何某ヲ引卒現場へ出張シ同(町村)戸長醫員并ニ證人ヲ立會セ檢視スル左ノ如シ(廿一年本達乙第五十六號ヲ以テ戸長ノ二字削除ニ依リ消)

一何々、
一何々、
一何々、

一何々、
一何々、
一何々、
一何々、
右檢視ヲ終リ此調書ヲ作り立會人ト共ニ署名押印スルモノ也

何郡何村(何某宅)ニ於テ

何署詰

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| 年號月日 | 立會人 | 官 | 氏名印 |
| | | 巡查 | 何某印 |
| | | 何町戸長 | 何某印 |
| | | | 何某印 |

附錄

檢視解剖及官廳内工場等ニテ變死ノ者檢視處分

▲第二十二號布告 明治十年二月廿一日
變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事(檢事派出ナキ地方ハ其地方長官)ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

▲第十四號達 明治十三年二月廿五日 官省院使府縣
 明治十二年(三月)第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事
 官廳内並ニ官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍
 ノ警察所ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ
 但軍人軍屬ニシテ陸海軍限リ處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及遠洋航
 海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

第四節 行旅病人及救護費額

○本甲第十七號 明治十六年六月廿八日

警察署

警察官吏ニ於テ行旅病人アルコトヲ知リ若クハ戸長ヨリ申告シタル場合ハ其容体ヲ
 視察シ一時ノ救護ニ止マラサルモノハ現場地戸長ヘ引渡シ救護セシムル義ト心得ヘ
 シ此段及通達候也(但書ハ廢止達ノ記號ニ依リ略ス)

▲乙第九十四號 明治十六年七月三日

郡區役場所

行旅病人重症又ハ饑餓ニ瀕スル者所轄警察署又ハ分署ヘ報告シタルトキ或ハ警察
 署又ハ分署ニ於テ直ニ見留メタルトキ該官檢察一時ノ救護ニ止マラサル者ハ戸長
 へ可引渡等ニ候條戸長ニ於テ相常救護取計其費用ハ本人又ハ原籍戸長ヘ照會シ家
 元ヨリ辨償セシムヘク若シ無籍ニ販スル者ノ若キハ事由ヲ詳記シ其都度申出ヘシ

此旨相達候事

●訓令第三百三十號 明治二十年四月廿三日

郡區役場所

行旅病人死亡人等アリタル時ハ管内外人ヲ問ハス其費額ハ左ノ制限ニ從ヒ取扱フヘシ

- 一 行旅病人救護費額左ノ如シ
 - 一 藥餌料 一日劑金六錢以內
 - 但高價ノ藥劑ハ其實價ニ依ルヘシ
 - 一 醫師診察料 一回金貳拾錢以內
 - 一 看護人賃 一晝夜金拾五錢以內
 - 一 食料 一飯金壹錢五厘以內
 - 一 宿泊手當 一晝夜金三錢以內トス
 - 但宿泊セシムル家屋一時小屋掛等ヲ爲ストキ其費額ハ金三拾錢以內
 - 一 薪炭油ノ類 實費
 - 一 行旅死亡人埋葬費額左ノ如シ
 - 一 棺桶墓標擔竹繩ノ類 金三拾錢以內
 - 一 埋葬人足二人以內 一人ニ付金拾五錢以內
 - 但穴堀死体運搬共
 - 一 死体番人二人以內 一晝夜一人ニ付金拾五錢以內

一 墓地手當實費

但其葬墓地ノ設ナキ町村ニ限ル

一 新聞紙廣告料

實費

但廣告ハ二回ヲ超ユヘカラス

附 錄 行旅死亡人取扱規則

▲第四十九號布告 明治十五年九月三十日

行旅死亡人取扱規則

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地ヘ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルトキ戸長ハ死亡ノ狀況並ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長ヘ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルトキハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルトキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場ヘ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ該費用ハ地方稅ヲ以

テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ

但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルコト能ハサルトキハ直チニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルトキハ之ヲ本籍ヘ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ

▲內務省訓第二五一號 明治十九年五月十一日

行病死亡人及行旅病人ノ携帶セル幼年者等救助ノ費用ハ本人又ハ家元ヨリ辨償セシムヘシト雖モ赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ恤救規則ニ依リ給與シ若シ増費ヲ要スルカ又ハ該規則ニ適當セサルモノハ本籍地方稅救育費ヲ以テ支辨スヘキ義ト心得ヘシ

第五節 棄兒拾揚及大阪市棄兒養育規則

○本甲第十八號 明治十九年二月五日

警察 署(水上署ヲ除ク)

棄兒拾揚ケ之レニ命名シ預リ人或ハ貰請人ノ定リタルトキ又ハ其預リ人ヲ換ヘ或ハ住

所ヲ移轉シタルルハ戸長ヨリ其都度棄兒ノ氏名及預リ人又ハ貫請人ノ住所氏名ヲ詳記シ所轄警察署ヘ報告スルヲニ決議相成候ニ付豫テ名簿ヲ調製シ其報告アル都度之ヲ加除シ然シテ常ニ注意査察スヘシ此段相達候也

○大阪市告示第十五號 明治廿二年十月一日

棄兒養育規則

第一條 貫請人ナキ棄兒ハ區長ニ於テ相當ノ養育人ヲ定メ之ヲ依托スヘシ
第二條 棄兒ノ養育ヲ依托スルトキハ明治四年六月布告ニ依リ國庫ヨリ下付ノ養育米代金ヲ給與スルノ外補助費トシテ滿十三歲迄一人一ヶ年金拾九圓以内ノ金額ヲ給與ス可シ但シ棄兒死亡セシトキハ其埋葬費ハ實費ヲ支給ス
第三條 前條補助費ノ支給額ハ區長ノ申請ニ依リ市參事會之ヲ定ム

第六節 迷子

●地第四百四十七號 明治八年十二月十二日

區 戸 長 へ

子弟ヲ見失ヒ迷子トナスルハ其失主ヨリ直ニ最寄警察署ヘ區名住所姓名其外衣類等巨細口上ヲ以テ届出可申亦迷子ヲ見當ル時ハ其子ヲ携ヘ最寄會議所ヘ可曳渡會議所ニ於テハ其子ノ人相衣類等見認最寄警察署ヘ可申出此旨各區内ヘ無洩可相達候事
○本乙第三十七號 明治十六年四月廿六日 市中各署

迷子ニシテ自家ノ町名番地等ハ詳知スルモ歸家道筋ヲ失念シ市街ニ彷徨スル者有之節ハ自今巡回巡查ニ於テ其道筋ヲ開取リ派出所傳遞ヲ以テ該家ヘ送り届ケ候様可致此段及通達候也

附 錄 迷子取扱及費用支辨方

▲内務省訓令第五號 明治二十二年二月二十一日

北 海 道 縣 廳

迷兒ハ棄兒ニ準シテ取扱ヒ家元發見シ若シ其費用辨償ノ資力ナキトキハ養育費ヨリ支辨スヘシ

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ取消ス

第七節 幼年者游泳

●諭第五號 明治十七年七月十四日

夏季炎熱ノ候ニ方リ毎年無智幼年ノ徒前後ノ思慮ナク游泳ニ耽リ爲メニ溺死スル者不尠ヲ以テ是迄數々告諭警戒セシ次第モ有之候處本年モ仍ホ炎熱ノ候ニ際シ幼稚ノ者ノ已ニ溺死セシ者往々有之趣相聞ヘ候右ハ畢竟父兄ノ怠リニ出ルモノニ付自今必ス注意シ幼年ノ子弟ヲシテ漫リニ游泳セサル様篤ク戒諭スヘシ

○本甲第八十九號 明治十七年七月十八日

警 察 署

幼年之輩游泳ニ耽リ溺死候者不少趣キ相聞ヘ候ヨリ今般論第五號ヲ以テ取締方其父兄ヘ告諭相成候處右溺死スルカ如キハ職トシテ父兄ノ不注意ヨリ生スル儀ニハ候得共亦行政警察ノ周到ナラサルニ原因スル儀ニモ可有之候條尙巡回巡查ニ於テモ精密注意シ其保護者ナクシテ游泳スルモノヲ見認候節ハ説諭シ速カニ上陸候様取計ハシム可シ此段及通達候也

第六章 遺失物

第一節 遺失物及賊捨置品取扱方

●廳達第七十五號

明治二十四年十二月廿五日

警察署

一遺失物賊捨置品保管ノ儀ハ物品會計規則ニ依ルヘキ筈ニ付キ以來各警察署ニ取扱主任ヲ定メ各品ニ見込價格ヲ付シ被服雜品ノ二部ニ分テ別紙第一號様式ノ出納簿明細簿ハ便宜調製シ各品目代價ニ番號人名等ヲ細別詳記スヘシニ登記シ第二號様式ノ收支報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ本廳物品會計官吏ヘ送付スヘシ
但支出ニ對シテハ別紙第三號様式ノ正當領收証書ヲ徴シ部類ヲ分テ報告書ニ添付スヘシ
一取扱主任ニ於テハ其物品ヲ故意若クハ怠惰ニ由リ亡失毀損シタル非ハ之レニ對スル相當ノ代價ヲ辨償セシムヘシ

一取扱主任交替ノ時ハ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ保管物ヲ引繼クヘシ

但引繼ヲ了シタル時ハ前後取扱主任及ヒ検査員連署ニテ其結了ノ旨本廳物品會計官吏ヘ報告スヘシ

遺失物及賊捨置品
出納簿

第一號 出納簿様式

第二號 報告書々式

明治何年何月分遺失物賊捨置品收支報告書

一何々 何百個 前月ヨリ越高

一何々 此代價何程 何百個 常月ノ受入高

一何々 此代價何程 何百個 常月拂渡高

一何々 此代價何程 何百個 遺失主又ハ拾得者へ下付

一何々 此代價何程 何百個 裁判所へ引繼

一何々 此代價何程 何百個 官沒

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

一何々 此代價何程 何百個

但官沒處分ノ上本府物品會計官吏引繼
此領收證書別紙何枚相添
右及報告候也

明治何年月日

物品會計官吏宛

第三號 領收證書式(用紙半紙野)

證

何々(現品名) 何個

何々(ヲ記ス) 何個

右何々(下付スルノ理由)ニ依リ正ニ領收候也

何郡市區町村番屋敷

年月日

何

某 印

大阪府御中

備考被服類ト雜品トハ領收證書格別ニスヘシ

●廳達第三號 明治二十五年一月廿三日

警察署

遺失物及贓拾置ニ係ル保管物品中畜類又ハ其他耐久シ難キ者遺失物取扱規則ニ依リ各警察署ニ於テ公賣シタルモハ客年廳達第七十五號毎月報告書中拂渡高ノ内譯ニ遺失物取扱規則第七條若クハ第九條ニ依リ公賣ノ一項ヲ設ケ之ニ買得者ノ領收證書ヲ添付スヘシ

●訓四第五號 明治廿五年三月三十一日

警察署

贓拾置金ノ内特ニ犯罪ノ証跡ヲ止ムルモノハ普通保管金ノ例ニ依ラス物品會計官吏ニ於テ保管スヘキモノニテ既ニ執行中ノ處本年四月一日以後收支ニ係ル分ハ其署遺失物贓拾置物品取扱主任ニ於テ客年十二月廳達第七十五號ニ依リ保管シ左記各項ニ依リ物品會計官吏ニ報告スヘシ

一 客年廳達第七十五號第二書式遺失物贓拾置品收支報告書末項ニ

一 贓拾置金 何圓何拾錢 前月ヨリ越高(五月分ヨリ本行ニ用ユ)

一 全 何圓何拾錢 受入 高

一 全 何圓何拾錢 拂渡 高

(証據トシテ裁判所其他へ送付シタルモノ并ニ沒收處分ノ上收入官吏ニ引渡タルモノ又ハ拾得者へ下付シタルモノ等ノ内譯記載スルヲ要ス)

一 領收證書ハ全上第三書式ニ準據スヘシ

一 帳簿ハ遺失物贓拾置品出納簿中贓拾置金ノ題號ヲ以テ收支シ明細簿ハ便宜

ニ設クヘシ

第二節 遺失物規則取扱手續

○本甲第一百十九號 明治十八年十二月十二日

第二四部(第二部ハ現時保安課) 警察署(第四部ハ警務課)

遺失物規則取扱手續別紙之通相定メ候條此段及通達候也(但書アレハ廢止記號ニ付略ス)

遺失物規則取扱手續

第一條 區部警察署天王寺會根崎警察署モニ於テ遺失物ヲ受理シタルハ本署第二部ニ送付シ該部ニ於テハ物品領置并ニ處分等ノ取扱ヲ爲スモノトス又郡部警察署

ニ在テハ受領及處分等一切ノ取扱ヲ爲スヘシ

○附錄 警達第廿五號 明治廿四年五月廿八日 市部、會根崎、天王寺、警察署

十八年本甲第一百十九號遺失物取扱手續第一條ニ依リ受理シタル物件現金ニ係ルト

キハ警察部保安課ニ送付ノ手續ヲ爲サス其署ニ於テ相當處分スヘシ

第二條 遺失物ヲ拾得テ訴出ルトキハ先其物質摸樣數量等ヲ取調若シ貨幣ナルハ

其眞贋等精密ニ調査シ之ヲ領收シ後日處分ノ節紛擾ナキヲ要ス

第三條 前條ニ依リ領收シタル物品ハ別紙受領証受渡証納附証欄内へ雛形ノ通其物

質摸樣數量種類等ヲ詳細列記シ契印ヲ捺シ之ヲ切斷シテ受領書ヲ拾得人へ下附シ

届書ヲ徴スルニ及ハス

但現金ハ本年(三月)本達乙第卅八號現金取扱手續ニ依ルヘシ(廿年本達乙第四十七號ヲ以テ但書追加ス)

第四條 其物質粗惡破レ提灯古籠古桶古燈古木履ノ類ニシテ用ニ耐ヘサル歟又ハ粗品ニシテ價直ヲ

有セサル者ト見認ル歟若クハ些少ノ金錢ナルハ一ヶ年ヲ經過シ物主知レサルハ

該物品請求スルノ念慮アルヤ否ヲ尋問シ若シ請求ノ念慮ナシト答フルハ受領証

ヲ下付セス該証及納付証へ請求ノ念慮ナシト朱書シ取扱者訴人ト連書捺印スヘシ

第五條 所轄外遠隔ノ者ニシテ遺失物ヲ拾得訴出ルハ一ヶ年内ニ歸郷スルコトアレ

ハ處分ノ際差支ナキ様代理人ヲ立テ届出ヘキ旨示達スヘシ

第六條 拾得物品中長大ニシテ領置ニ不便ナル歟又ハ破損シ易ク若クハ耐久シ難キ

モノハ便宜公賣シテ其代價ヲ領置スヘシ

第七條 領置シタル物品拾得金品明細簿へ雛形ノ如ク記載シ且ツ物品ハ成ヘク一總

ニ取束子拾得ノ年月日番號并ニ得者ノ氏名ヲ木牌ニ記シ之ヲ附シ散亂セサル様注

意スヘシ

第八條 領置シタル金錢壹圓以上若クハ物品中其價額壹圓以上ノモノト見認ルハ

第一號書式ニ依リ之ヲ其署ノ揭示所へ三十日間廣告スルモノトス又分署ニ在リテ

ハ一面本屬警察署へ申報シ其申報ヲ受タル警察署ハ本條ノ例ニ依リ取扱フヘシ

但揭示ヲ必要ト見認ルハ價額壹圓以下ト雖モ本條ニ從フモノトス

第九條 區部警察署ニ於テ物品ヲ本署第二部ニ送附スルハ受渡証及納附証ヲ副へ

然シテ受渡証其雛形ノ欄へ受取人ノ証印ヲ受ケ置クモノトス其郡部各分署ニ在テハ三十日間領置シ第八條ニ從ヒ廣告シ仍ホ遺失者不分明ナル場合ハ區部警察署ノ例ニ倣ヒ本屬警察署へ送付ス可シ

但分署ニ於テ運搬不便ナル者ハ書類ノミヲ送付シ該物品ハ其署へ領置スルヲ得第十條 區部警察署又ハ郡部警察分署ニ於テハ前條ニ依リ納付済ノ受渡証ヲ順次ニ番號ヲ逐ヒ拾得物根帳へ貼付シ置クヘシ

但分署ニ於テ送付セサル物品又ハ送付シタル物品ニ係ルホト雖ホ本屬警察署ハ便宜處分案ヲ付シ分署ニ於テ物品ヲ下付セシムルヲ得

第十一條 郡部警察署ニ於テ領收シタル遺失物品ノ内拾圓以上ノ金錢又ハ拾圓以上ノ價額アルモノニシテ三十日間廣告シ物主不分明ナルホハ拾得月日時及種類摸樣個數等ヲ詳記シ速ニ本署第二部へ報告スヘシ

第十二條 本署第二部ニ於テ前條ノ報告ヲ受ル歟又ハ區部警察署ヨリ領收シタル遺失物品ノ内拾圓以上ノ價額アルモノ又ハ拾圓以上ノ金錢ハ第二號書式ニ依リ府下署用ノ新聞紙二種へ三日宛廣告スヘシ

第十三條 前條廣告ニ依リ該物品遺失ノ旨物主ヨリ申出タルホハ其遺失セシ月日時場所及種類摸樣個數等ヲ詳記シ本署第二部へ報告スルモノトス該部ニ於テ本條ノ報告ヲ受レハ速ニ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十四條 本署第二部ニ於テハ區部警察署ヨリ郡部警察署ニ於テハ直ニ領收シタルモノ及所屬分署ヨリ送付セシ納付證ヲ一署毎ニ拾得物根帳ヲ區分シ順次番號ヲ逐ヒ之ヲ貼附シ置クヘシ

但根帳へ貼附スルハ一葉二件ヲ限ルモノトス

第十五條 本署第二部ニ於テハ區部警察署ヨリ送付シタル物品ノ内其價額五圓以上ノモノ又ハ五圓以上ノ金錢及人力車其他持主ニ於テ必要ト思料スヘキ物品ハ之ヲ揭示報告簿ニ記載シ區部各警察署へ(受附タル署ヲ除ク)報告シ其報告ヲ受ケタル警察署ニ於テハ第八條ノ例ニ依リ之ヲ廣告スヘシ

但分署アル警察署ハ其所屬各分署へ通報シ本條ニ從ヒ廣告セシムルモノトス

第十六條 郡部警察署ニ於テ直ニ領收シタルモノ又ハ所屬分署ノ申報ニ係ルモノニシテ前條ノ物品アルホハ所屬各分署(受附タル署ヲ除ク)及必要ト思料スル場合ハ接近警察署及ヒ分署へ通報シ其通報ヲ受ケタル警察署分署ハ第八條ニ依リ廣告スヘシ第十七條 領置シタル物品中書類其他著シキ摸樣記號等アリテ物主發見手懸リアルホハ區部警察署ニ領收シタルモノハ本署第二部ニ於テ郡部警察署又ハ分署ニ領收シタルモノハ其警察署ニ於テ遺失届書ト照合シ又ハ諸官衙ニ照會シテ物主ヲ取調フヘシ

但公債證書ナルホハ所有者ノ判然スルト否トニ拘ハラズ其拾得ノ顛末及該證書

ノ種類番號金高記名ノ分ハ其所有者等ヲ詳記シ他ノ管轄ニ係ルモノハ現證書ヲ副へ速ニ本署第二部へ報告スルモノトス(十九年本甲第三十六號ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第十八條 各警察署ニ於テ領收シタル埋藏物品中古代ノ沿革ヲ徵スルモノ又ハ御陵墓或ハ古墳等ノ疑ヒアルモノハ其地景及土地ノ摸樣並ニ口碑流傳等詳細取調且ツ圖面ヲ副へ長官へ上申スヘシ

第十九條 前條ノ上申アリタルル本署第二部ニ於テハ十年内務省甲第二十號布達十三年宮内省乙第三號達ニ依リ其筋へ進達ノ手續ヲ爲スヘシ(十年内務省甲第二十號布達ノ件ハ十九年宮内省達第十三號ヲ以テ全)

第二十條 領置シタル物品一ケ年内物主知レタルルハ事實取調ノ上遺失届或ハ物主ノ証明書ヲ徵シ遺失物規則ニ照シ處分案ヲ作り警部長又ハ署長ノ決議ヲ經テ第三號書式ノ處分書ヲ付シ納付證書裏面へ物主并ニ拾得者ノ受印ヲ徵シ受領證ヲ返納セシメ物品ヲ下附スヘシ

第二十一條 領置シタル物品ノ内若シ其幾部分物主知レタルルハ前條ノ手續ニ從ヒ處分書ヲ付シ双方連署ノ請書ヲ徵シ其物品ノミヲ下付シ受領證并納付證へ其旨記入シ取扱者ノ捺印ヲ捺シ受領證ハ猶ホ拾得人へ下付シ納付證ハ根帳へ貼付シ置クヘシ
第二十二條 區郡警察署又ハ郡部各分署ニ於テ領收シタル物品未タ納付セサル前物主知レタルルハ前二條ノ手續ニ從ヒ其署長ノ決議ヲ經テ之ヲ處分シ納付證并遺失

届或物主ノ證明書其他ノ書類ヲ添へ本署第二部又ハ本屬警察署へ送付スヘシ

第二十三條 領收シタル物品一ケ年内ニ物主知レサルルハ遺失物規則ニ照シ處分案ヲ作り警部長又ハ署長ノ決議ヲ經テ物品ヲ下付シ納付證書裏面へ拾得者ノ受印ヲ徵シ受領證ヲ返納セシムヘシ

第二十四條 請求ノ念慮ナキ物品金錢ハ一ケ年經過ノ後官沒又ハ棄損スヘシ

第二十五條 警察官吏ノ拾得物其他物主知レスシテ官沒スヘキモノハ本部内事課ハ毎月郡部警察署ハ三ヶ月毎ニ之ヲ取調へ警部長又ハ署長ノ決議ヲ經テ内事課ハ之ヲ第三課ニ送付シ郡部警察署ハ之ヲ公賣スヘシ(廿年本達乙第四十七號ヲ以テ本課トアルハ警察職務規程改正ニ依リ保安課主管第三課ハ警務課)
但公賣シタル節ハ落札人ヨリ物品ノ代價ヲ詳記シタル落札請書ヲ徵シ第四號書式ノ仕譯書ヲ添へ速ニ内事課へ送付スヘシ

第二十六條 郡部警察署ニ於テハ官沒金ニ第四號書式ノ仕譯書ヲ副へ速ニ本部内事課へ送付スルモノトス又同課ニ在テハ毎月全課及郡部警察署ノ官沒金ヲ合集シ取扱主任ノ納金證書ヲ副へ第三課へ送付シ全課ハ之ヲ本府會計課へ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 第廿條第廿一條ニ依リ處分シタル納付證書遺失届或ハ證明書請書等ハ甲號遺失物處分濟編冊ニ第廿三條ニ依リ處分シタル納付證及決議書等ハ乙號遺失物

處分編冊ニ第廿四條第廿五條ニ依リ處分シタル納付證及決議書等ハ丙號遺失物處分編冊ニ綴ルヘシ

第二十八條 遺失物取扱ニ關スル簿冊ハ左ノ如シ

拾得物受渡帳

拾得物根帳

遺失屆編冊

甲號遺失物處分簿編冊

乙號全

丙號全

揭示報告簿

公賣金官沒金任譯書編冊

拾得金品明細簿

日計簿(廿年本達乙第四十七號ヲ以テ日計簿追加)

領受證貼付臺帳(廿年本達乙第四十七號ヲ以テ日計簿追加)

拾得金口別簿(全上)

第一號書式

一金何圓何拾錢

但紙幣又ハ貨幣

一何品何箇

一全全全全

右何區何町ニ於テ拾得届出シ者有之心當リノ者ハ速ニ申出ヘシ

年 月 日

何警察署
何々分署

第二號書式

一金何圓何拾錢

但紙幣又ハ貨幣

一何品何箇

一全全全全

右何區何町ニ於テ拾得届出シ者有之心當リノ者ハ最寄警察署へ申出ヘシ

年 月 日

大阪府警察本部

第三號書式 用紙ハ通常小野紙

一金何圓何拾錢

遺失主 何ノ誰

一何品何箇

一全全全全

外ニ何点

右何ノ誰拾得届書有之處其方ノ遺失品ニ付遺失物取扱規則何條ニ依リ還付候條拾得主へ費用(並ニ報勞金)可差遣候事

年 月 日

警察本署又
何警察署

第四號書式 用紙ハ通常小野紙

官沒遺失物公賣金(或ハ官沒金)任譯書

一金何錢何厘

是ハ何年何月何日警部全補又ハ巡查何某巡回中拾得スル金又ハ何品外何點賣拂代金

一金何錢何厘

是ハ前同斷何某ノ拾得スル金又ハ何品何點賣拂代金惣計金何圓何拾錢

右ハ遺失物一ケ年間領置候處物主不分明ナルヲ以テ官沒セシ金及公賣請書及御送付候也(廿年本達乙第四十七號ヲ以テ公賣ノ下四字ヲ削リ受書ト改ム)

年 月 日

何警察署長

本署第二部御中

何 某 印

- 第五條 保安課ニ於テ前條ノ送付ヲ受ケタルハ直ニ現金ナレハ金券ニ替ヘ金券ハ其儘送金證ヲ添ヘテ主計課ニ送付シ同課ニ於テ領置スヘシ(全上)
- 第六條 拾得者及捨置金屬出者等ヘ下付スヘキ領受證書ニハ金貨ヲ除ク外金貨ノ種別ヲ記載セス只納付証ニノミ詳記シ置クヘシ
- 第七條 主計課ハ保安課ヨリ送付ヲ受ケタル都度領受證ヲ發シ保安課ハ豫テ拾得金諸據品現金各別ニ領受証票帳ヲ設ケ置キ散亂セサル様取纏メ保存スヘシ
- 第八條 保安課ハ拾得金証據品現金各別ニ日計簿ヲ設ケ郡部警察署(會帳崎天王寺ヲ除ク)ハ拾得金及証據金ノ各科目ヲ設ケテ收支ノ記簿(原簿送ニ止ム)ヲナスヘシ

附 錄 遺失物取扱規則及埋藏物掘得ル者處分方

▲第五十六號布告 明治九年四月十九日

遺失物取扱規則

- 第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直チニ之レヲ返還シ遺失物ヲ論スルヲ得ス
- 第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送

- ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキトギハ之ヲ得者ニ給ス
- 第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ
- 第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之レヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラスニ拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム
- 第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム
- 第六條 官私ノ地內ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム(十四年第二號布告ヲ以テ本條及但書改正)
- 但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス
- 第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クモ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示ノ處分スルヲ第二條ノ如シ
- 第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ

若シ他ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス

第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シハ日内其主ナケレハ官之ヲ公賣シ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖凡物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送達セス或ハ物主ノ其主タルヲ證明スルニ冒認ノ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

▲内務省甲第二十號布達 明治十年九月廿七日

明治九年(四月)太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ義公布相成候處右物品ノ中于古代ノ沿革ヲ徴スル者有之候ニ付處分前一應當省へ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ル者ハ其價

格ノ半高チ以テ發掘人へ下付シ該物品ハ永ク博物館へ陳列可致候條此旨相達候事

但シ物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及ヒ撰寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文ノ通り可取計候事

▲宮内省達第十三號 明治十九年十月廿七日 北海道廳

明治十年九月内務省甲第二十號布達ノ件ハ自今當省へ届出ヘシ

附 錄 遺失物中沒官ノ物品取扱方

▲内務省乙第三百三十六號 明治九年十二月廿日 府 縣(東京府ヲ除ク)

本年(八月)當省乙第九十七號沒官ノ物品取扱方達書左ノ通改正候條此旨相達候事遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品之中裁判ニ係ルモノハ裁判所ニ送付シ裁判ニ係ラサルモノハ之ヲ公賣シ其應禁物ハ一旦廢毀スルノ後ハ之ヲ公賣スルモ害ナキモノハ同様處分シ其金額每六ヶ月分^{七月ヨリ}十二月マテ^{一月ヨリ}取纏メ明細書相添大藏省へ納付可致事(但書ハ十九年省令第十六號ヲ以テ廢止)

▲太政官第六十三號達 明治十八年十一月廿六日 府 縣
裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今都テ地方廳ニ引繼地方廳ニ於テ便宜之ヲ賣却スヘシ此旨相達候事

第七章 贋造貨幣取扱

○本甲第九十號 明治十五年四月六日

各 署

贋造貨幣取扱ノ儀ニ付明治九年大藏省甲第十二號布達ニ依リ各警察署ニ於テハ右紙幣ノ原因其他取糺ノ上本署ヘ送附致來候處右ハ急遽ヲ要スル儀ニ付一面發見書及ヒ其貨幣ヲ直ニ本署ヘ送致シ一面捜査ノ手續ヲ爲シ後其始末書ヲ差出スヘシ此段相達候也

附 錄 贋造金銀銅貨紙幣取扱規則

▲第五十七號布告 明治九年四月十九日

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贋造金銀銅貨紙幣取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋子其面前ニ於テ斷裁シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戸長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スル時ハ該廳ヨリ警察署ニ通知スヘシ

但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷裁シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷裁シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷裁シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換ヘ相渡シ其斷裁シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ

引換ヲ乞フヘシ

第三條 若シ正贋定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷裁シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ

第五條 贋造ヲ知ルト雖斷裁セスシテ持主ニ還付シ又ハ中立ヲ等閑ニスルモノ等ハ相當ノ處罰ヲナスヘシ

▲大藏省乙第四十號 明治九年五月八日

府 縣

太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ掲載ノ通り鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷裁シタル時ハ改人ヨリ其同等ノ品ト引換相渡其斷裁シタル紙幣ハ事由ヲ詳記ノ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ繰替引換遣シ追テ右改人ヨリ差出セシ書面ヘ現札ヲ添紙幣寮ヘ交換申出ヘシ尤交換手数料ハ別段下與不致義ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混樣區別可致候此旨相達候事

但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ贋摸ノモノニ付右ハ贋札ヲ以テ處分可致候

▲大藏省乙第六十八號 明治九年七月廿六日 府 縣
 本年第五十七號ヲ以テ公布相成候廢造金銀銅貨紙幣等取扱規則第五條鑒定ヲ誤リ
 斷截シタル正貨幣ノ儀ハ昨八年當省乙第三十號達流通不便ノ金銀貨幣交換手續書
 ニ據リ金貨並貿易銀貨ハ第七條ニ準シ五拾錢以下ノ銀貨並銅貨ハ第九條ニ準シ鑒
 定者ニ限リ交換可取計尤モ交換セシ各貨幣ハ同書第拾條第拾壹條ノ通處分可致此
 旨相達候事

但各廳ニ於テ鑒定方申付置候銀行又ハ爲換方ノ者誤鑒斷截致シ候節ハ一時他ノ
 鑒定人雇入レ令秤量候ハ勿論ニ候得トモ萬一他ニ可雇入者無之節ハ各廳ニ於テ
 直ニ秤量致シ成規ノ通手續取立毎年五月限り明細書相添當省へ上納可致候事
 (天藏省乙第三十號達ハ十六年同省第四十五號達ニ依リ消ル)

▲大藏省乙第四十號 明治十四年十一月五日 府 縣
 銀行紙幣廢造札描改札處分方之儀ハ明治九年(四月)第五十七號布告及ヒ同年(五
 月)當省甲第十二號布達同年(五月)當省乙第四十號達ニ準據候儀勿論ニ候得共有
 處分方了ノ上ハ該札相添銀行局へ可届出儀ト可相心得且又右第五十七號布告規
 則第二條等ニ據リ引換フヘキ正紙幣ヲ改入ヨリ差出候トキハ其接近ノ地ニ設立ス
 ル國立銀行本支店(其紙幣ヲ發行セシ銀行ニアラサルモ)下付シテ交換セシメ代リ
 金ハ該銀行ヨリ直チニ其改入へ交付可爲致此旨相達候事

附 錄 描改紙幣納付方

▲大藏省甲第十二號 明治九年五月十八日
 本年(四月)太政官第五十七號公布廢造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙
 幣等廢造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト
 五拾圓拾圓ト五圓貳圓ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ
 描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ廿錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ廢
 製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色別紙ノ通各種毎ニ
 暨ヒ描改ノ証ヲ所持人へ明示シ其儘警察出張所等へ差出同所ニ於テハ右紙幣ノ原
 因其外取札處分相濟候ハ、引換切ニ取計紙幣察へ相納候儀ト可相心得此旨布達候事

- 百圓札 裏面淡紅地ニ紋色深紅
- 五拾圓札 同 淡青地ニ同 深青
- 拾圓札 同 淡紅地ニ同 紫
- 五圓札 同 淡黑地ニ同 青
- 貳圓札 同 橙黃地ニ同 茶褐色
- 壹圓札 同 淡青地ニ同 深青
- 半圓札 同 白地ニ同 淡褐色

貳拾錢札 同 白地ニ 同 青
拾錢札 同 白地ニ 同 綠(十九年勅令第五十號ヲ以テ拾錢紙幣通用禁止)

▲大藏省令第二十八號 明治十九年九月二日

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ贋造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年(四月)第五十七號布告贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年(五月)當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ

但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店ヘ引換ヲ請フヘシ

▲大藏訓令第四十二號 明治十九年九月二日

北海道廳

當省令第二十八號贋造及描改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十四年(十一月)當省乙第四十號達ニ準據スヘシ

第三編 風 俗

第一章 富類似ノ講

●明治二巳年六月

仕法講ノ儀ハ舊來制禁ノ處近頃盛ノ由尤モ甚シキニ至テハ玉講ト唱候仕法ハ博奕ニ等シキ仕法モ有之趣相聞不埒ノ事ニ候此後堅ク可爲停止若シ相犯シ候ニ於テハ加入

ノモノマテ屹度咎可申付候事

右ノ通四組町ヘ無洩相達スル者也

●明治三年三月十七日

去四月中玉講停止之旨及布令置候處此節賴母子講ト名儀唱替專ラ取組致候趣相聞不埒ノ事ニ候得共此度ハ寛大之所置ヲ以不及吟味候間早々解講致シ掛金加入人ヘ割戻シ等致シ故障無之様可致候以來屹度咎方可申付候且社寺修覆并身貧之者ハ懇切ヲ以テ聊之講取組遣候儀ハ不苦者也

右之趣四組町中無漏可相布令者也

●明治四年正月

富興行之儀ハ嚴禁ニ候處近來於市中紛ハ敷處業候者存之哉ニ相聞以之外之事ニ候向後有様之者有之亦ハ富札買取候者ハ屹度當罰可申付候事

右之趣四組町々無漏可相達尤年寄共承知ノ段刻付印形可致者也

●第九十六號 明治七年三月二十八日

神佛教會講社ヲ名トシ舊來賴母子講同様ノ金錢募立候輩モ有之哉ノ趣相聞以ノ外ノ事ニ候右等ノ所業決シテ不相成候條心得違無之様堅ク可相守事

右ノ趣管内無洩相達スル者也

頼母子ノ名義ヲ唱玉講富講等博奕ニ等シキ所業ハ舊來ノ通決シテ不相成候得共實義
ヲ以テ融通ノ爲メ頼母子取結候義ハ差支無之候條不正ノ講不取結様一同可相心得事
右ノ趣管内無洩相達スル者也

●甲第五十五號 明治十五年五月廿九日

諸興行場又ハ商賈開店及物品發賣ノ節名ヲ景物ニ藉リ客人へ圖札ヲ與へ富ニ類似ノ
所業一切不相成候條此旨布達候事

附 錄 富興行禁制及罰則

▲布告 明治元年十二月廿三日

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建
等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季ノ弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ
自然農工商共其職業ヲ惰リ往々是カ爲メニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞以ノ外ノ
事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣意ニ相戾リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事
▲第二十五號布告 明治十五年五月廿四日

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買
シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮

ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトテ問ハス二十
日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ
借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處
ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス
第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其
罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

第二章 神佛祭典及祈禱附御紋章

○甲市郡第三十五號 明治十四年二月十五日

本○ 市 郡 各 署 各 署

國旗揚標方ノ儀ニ付別紙之通石川縣警察本署ヨリ差回越候條爲御心得此段及回達候也
別紙(明治十三年十二月廿一日)